

高等学校における教科指導の充実

商 業 科

新学習指導要領を踏まえた
ビジネスの諸活動に目を向けさせる指導の工夫

栃木県総合教育センター
平成24年3月

ま え が き

21世紀は、新しい知識・情報・技術が、政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す、いわゆる「知識基盤社会」の時代であると言われてしています。そのような時代を生きるために、確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和を重視する「生きる力」をはぐくむことがますます重要になっています。他方、各種の国際的な調査では、我が国の児童生徒について、思考力・判断力・表現力等、知識・技能の活用、学習意欲、学習習慣・生活習慣などに課題があると分析されました。このような状況を踏まえて、平成20年1月の中央教育審議会の答申を受け、平成21年3月に高等学校学習指導要領が告示されました。

この新しい学習指導要領は、高等学校では平成25年度入学生から年次進行で実施されます。総則の一部、総合的な学習の時間及び特別活動においては、平成22年度から先行して実施されています。また、数学、理科及び理数の各教科・科目については、平成24年度入学生から年次進行により先行して実施されます。各学校においては、新しい学習指導要領の理念をどのように実現していくのか、具体的な検討を進めていることと思います。

栃木県総合教育センターでは、基礎・基本の確実な定着を図る教科指導の在り方について研究するとともに、その成果を普及することで生徒の学力の向上に資することを目的に、平成17年度から「高等学校における教科指導の充実に関する調査研究」を行ってきました。今年度は、昨年度に引き続き、「今回の学習指導要領の改訂の趣旨を踏まえるとともに、各教科に求められている課題の解決を図るための教科指導の在り方を探る」ことに重点を置き、国語科、地理歴史科、理科、保健体育科、商業科で調査研究に取り組みました。本冊子はその成果をまとめたものであり、教科指導を充実させる一助として、御活用いただければ幸いです。

最後に、調査研究を進めるに当たり、御協力いただきました研究協力委員の方々に深く感謝申し上げます。

平成24年3月

栃木県総合教育センター所長

瓦 井 千 尋

目 次

1	本調査研究の背景	1
2	商業科における、ビジネスの諸活動に目を向けさせる指導の工夫	5
3	ビジネスの諸活動に目を向けさせる指導の実践例	
	事例1	
	ビジネスの諸活動に目を向けさせ、専門的な学習への動機付けを図る指導の工夫	7
	事例2	
	利害関係者に提供された会計情報を基に、企業の経済活動について主体的に考察させる指導の工夫	17
	事例3	
	ビジネスの諸活動において、情報を主体的に活用させ、表現させる指導の工夫	35
4	おわりに	48

※本資料は、栃木県総合教育センターのホームページ「とちぎ学びの杜」内、「調査研究」と「教材研究のひろば」のコーナーにも掲載しています。

（「とちぎ学びの杜」 <http://www.tochigi-edu.ed.jp/center/>）

1 本調査研究の背景

今年度の「高等学校における教科指導の充実に関する調査研究」は、平成21年告示の高等学校学習指導要領の改訂の趣旨を踏まえるとともに、各教科に求められている課題の解決を図るための教科指導の在り方を探ることに重点を置き、国語科、地理歴史科、理科、保健体育科、商業科で実施するものである。

各教科で調査研究した内容を次章以降に提示するに当たり、まず、平成21年告示の高等学校学習指導要領改訂の基本的な考え方、教育内容の主な改善事項及び学習評価の基本的な考え方について整理する。

(1) 学習指導要領改訂の基本的な考え方

平成21年告示の高等学校学習指導要領の改訂では、21世紀を生きる子どもたちの教育の充実を図るため、「生きる力」をはぐくむという教育課程の基準全体の見直しを図った。今回の改善の方向性は、平成20年1月の中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」に示されている。答申では、以下の①～⑦を基本的な考え方として、各学校段階や各教科等にわたる学習指導要領の改善の方向性が示された。

- ① 改正教育基本法等を踏まえた学習指導要領改訂
- ② 「生きる力」という理念の共有
- ③ 基礎的・基本的な知識・技能の習得
- ④ 思考力・判断力・表現力等の育成
- ⑤ 確かな学力を確立するために必要な授業時数の確保
- ⑥ 学習意欲の向上や学習習慣の確立
- ⑦ 豊かな心や健やかな体の育成のための指導の充実

具体的には、①については、教育基本法が約60年振りに改正され、21世紀を切り拓く心豊か^{ひら}でたくましい日本人の育成を目指すという観点から、これからの教育の新しい理念が定められたことや学校教育法において教育基本法改正を受けて、新たに義務教育の目標が規定されるとともに、各学校段階の目的・目標規定が改正されたことを十分に踏まえた学習指導要領改訂であることを求めた。③については、読み・書き・計算などの基礎的・基本的な知識・技能は、例えば、小学校低・中学年では体験的な理解や繰り返し学習を重視するなど、発達の段階に応じて徹底して習得させ、学習の基盤を構築していくことが大切との提言がなされた。この基盤の上に、④の思考力・判断力・表現力等をはぐくむために、観察・実験、レポートの作成、論述など、知識・技能の活用を図る学習活動を発達の段階に応じて充実させるとともに、これらの学習活動の基盤となる言語に関する能力の育成のために、小学校低・中学年の国語科において音読・暗唱、漢字の読み書きなど基本的な力を定着させた上で、各教科等において、記録、要約、説明、論述といった学習活動に取り組む必要があると指摘した。また、⑦の豊かな心や健やかな体の育成のための指導の充実については、徳育や体育の充実のほか、国語をはじめとする言語に関する能力の重視や体験活動の充実により、他者、社会、自然・環境とかかわる中で、これらとともに生きる自分への自信をもたせる必要があるとの提言がなされた。

また、高等学校の教育課程の枠組みについては、高校生の興味・関心や進路等の多様性を踏まえ、必要最低限の知識・技能と教養を確保するという「共通性」と、学校の裁量や生徒の選択の幅の拡大という「多様性」とのバランスに配慮して改善を図る必要があることが示された。

(2) 教育内容の主な改善事項

平成21年告示の高等学校学習指導要領における教育内容の主な改善事項は以下のようである。

●言語活動の充実

- ・国語をはじめ各教科等で批評、論述、討論などの学習を充実した。

●理数教育の充実

- ・遺伝など、近年の新しい科学的知見等を踏まえ内容を充実し、統計に関する内容を数学Ⅰに導入した。
- ・日常生活や社会との関連を重視した改善を図った。
- ・数学Ⅰに〔課題学習〕を導入したり、科目「理科課題研究」を新設したりするなど、知識・技能を活用する学習や探究する学習を重視した。

●伝統や文化に関する教育の充実

- ・歴史教育（世界史における日本史の扱い、文化の学習を充実）、宗教に関する学習を充実した。
- ・古典（国語）、武道（保健体育）、伝統音楽（芸術「音楽」）、美術文化（芸術「美術」）、衣食住の歴史や文化（家庭）に関する学習を充実した。

●道徳教育の充実

- ・学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育について、その全体計画を作成することを新たに規定した。
- ・現代社会や特別活動において人間としての在り方生き方に関する学習を充実した。

●体験活動の充実

- ・ボランティア活動などの社会奉仕、就業体験を充実するとともに、職業教育において、産業現場等における長期間の実習を取り入れることを明記した。

●外国語教育の充実

- ・指導する単語数を増加するとともに、授業を実際のコミュニケーションの場とするという観点から、授業は英語で指導することを基本とするなどの改善を図った。

●職業に関する教科・科目の改善

- ・職業人としての規範意識や倫理観、技術の進展や環境等への配慮、地域産業を担う人材の育成等、各種産業で求められる知識・技術等を身に付けさせる観点から科目構成や内容を改善した。

(3) 学習評価の基本的な考え方

現在、高等学校においては、学習状況を分析的にとらえる観点別学習状況の評価と総括的にとらえる評定とを、学習指導要領に定める目標に準拠した評価として実施している。小・中学校において観点別学習状況の評価が定着していることから、高等学校段階においても、学習評価の前提となる指導と評価の計画や、観点に対応した生徒一人一人の学習状況を生徒や保護者に適切に伝えていくなど、学習評価の一層の改善が求められている。

このようなことから、高等学校においても、学校教育法や平成21年告示の高等学校学習指導要領を踏まえ、基礎的・基本的な知識・技能に加え、思考力・判断力・表現力等主体的に学習に取り組む態度に関する観点についても評価を行うなど、観点別学習状況の評価の実施を推進し、きめの細かい学習指導と生徒一人一人の学習の確実な定着を図っていく必要がある。なお、高等学校における教科・科目の評価の観点は、小・中学校との連続性に配慮しつつ、平成21年告示の高等学校学習指導要領の趣旨を踏まえ、生徒の実態に合わせて設定することが適当である。

また、学習評価は、生徒の学習状況を検証し、結果の面から教育水準の維持向上を保障する機能を有するものである。したがって、学校が地域や生徒の実態を踏まえて設定した観点別学習状況の評価規準や評価方法等を明示するとともに、それらに基づき学校において適切な評価を行うことなどにより、高等学校教育の質の保障を図るものである。

平成21年告示の高等学校学習指導要領における評価の観点は、以下の囲みのように整理される。「知識・理解」及び「技能」については、教科の特性に応じ、知識と技能に関する観点が分けて示されていることもある。また、「思考・判断・表現」については、各教科の目標や内容を踏まえ、当該教科において育成すべき能力にふさわしい名称とし、位置付けられている。

● 「関心・意欲・態度」

各教科が対象としている学習内容に関心をもち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を児童生徒が身に付けているかどうかを評価するもの。評価に当たっては、各教科が対象としている学習内容に対する児童生徒の取組状況を通じて評価することが基本であり、例えば、授業中の挙手や発言の回数といった表面的な状況のみに着目することにならないよう留意する必要がある。

● 「思考・判断・表現」

各教科の知識・技能を活用して課題を解決すること等のために必要な思考力・判断力・表現力等を児童生徒が身に付けているかどうかを評価するもの。従来の「思考・判断」に「表現」が加えられた。これは、この観点到に係る学習評価を、言語活動を中心とした表現に係る活動や児童生徒の作品等と一体的に行うことを明確に示したためである。

このため、この観点を評価するに当たっては、単に文章、表や図に整理して記録するという表面的な現象を評価するものではなく、例えば、自ら取り組む課題を多面的に考察しているか、観察・実験の分析や解釈を通じ規則性を見いだしているかなど、基礎的・基本的な知識・技能を活用しつつ、各教科の内容等に即して思考・判断したことを、記録、要約、説明、論述、討論といった言語活動等を通じて評価するものであることに留意する必要がある。

● 「技能」

各教科において習得すべき技能を児童生徒が身に付けているかどうかを評価するもの。基本的には、従来の「技能・表現」で評価している内容は引き続き「技能」で評価する。

今回、各教科の内容に即して思考・判断したことを、その内容を表現する活動と一体的に評価す

る観点として「思考・判断・表現」が設定されたことから、当該観点における「表現」との混同を避けるため、評価の観点の名称が「技能・表現」から「技能」に改められた。

● 「知識・理解」

各教科において習得すべき知識や重要な概念等を児童生徒が理解しているかどうかを評価するもの。従来の「知識・理解」の趣旨を踏まえた評価を引き続き行う。

また、評価の在り方については、「高等学校学習指導要領解説 総則編」で、次のように述べられている。

〈第3章 5 (12) 指導の評価と改善 (第1章第5款の5の(12))〉

基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図るとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を育成し、学習意欲を高めるための指導を行うためには、評価の在り方が大切である。いわゆる評価のための評価に終わることなく、生徒一人一人の学習の成立を促すための評価という視点を一層重視することによって、教師が自らの指導を振り返り、指導の改善に生かしていくことが特に大切である。

評価に当たっては、生徒の実態に応じた多様な学習を促すことを通して、主体的な学習の仕方が身に付くように配慮するとともに、生徒の学習意欲を喚起するようにすることが大切である。その際には、学習の成果だけでなく、学習の過程を一層重視する必要がある。特に、他者との比較ではなく生徒一人一人の持つよい点や可能性などの多様な側面、進歩の様子などを把握し、学年や学期にわたって生徒がどれだけ成長したかという視点を大切にすることが重要である。また、生徒が自らの学習過程を振り返り、新たな自分の目標や課題をもって学習を進めていけるような評価を行うことが大切である。

学習評価においては、生徒のよい点や進捗の状況などを積極的に評価するとともに、指導の過程や成果を評価し、教師が自らの指導の改善を行い、生徒の学習意欲の向上に生かすようにすることが大切である。そのためにも、「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」、「技能」、「知識・理解」の4観点の趣旨を踏まえ、適切に評価を進めていくことが求められる。

※本冊子においては、以降、平成11年3月に告示された学習指導要領を「現行の学習指導要領」、平成21年3月に告示された学習指導要領を「新学習指導要領」として記す。

※本冊子に掲載した単元等に付してある評価規準は、新学習指導要領における教科・科目を想定して、参考として掲載したものである。

2 商業科における、ビジネスの諸活動に目を向けさせる指導の工夫

平成25年度から実施される学習指導要領において、商業科の目標は次のとおりである。

商業の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、ビジネスの意義や役割について理解させるとともに、ビジネスの諸活動を主体的、合理的に、かつ倫理観をもって行い、経済社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てる。

(「高等学校 学習指導要領」 平成21年3月告示から抜粋)

今回の改訂においては、職業人としての倫理観や遵法精神、起業家精神などを身に付け、経済の国際化やサービス化の進展、情報通信技術の進歩、知識基盤社会の到来など、経済社会を取り巻く環境の変化に適切に対応してビジネスの諸活動を主体的、合理的に行い、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人を育成する観点から、目標について次の改善が図られている。

- ①活用する能力に伴った知識と技術や具体的なビジネスの諸活動と結び付いた知識と技術の習得
 - ・目標をもった意欲的な学習を通して知識・技術の定着を図る。
 - ・知識・技術の習得にとどまらず、思考力、判断力、表現力を育成する。
 - ・ビジネスの場面を想定して指導する。
 - ・商業の学習と職業との関連を理解させる。

- ②学習活動全体を通してビジネスの諸活動に目を向けさせる。
 - ・社会人講師を活用した授業や就業体験などに積極的に取り組ませる。
 - ・経済社会とのかかわりの中で、生徒自ら考察させる。
 - ・新聞、放送、インターネットなどの活用を図る。

- ③ビジネスの諸活動を主体的、合理的に、かつ倫理観をもって行う。
 - ・グループで調査や研究などの活動を行う。
 - ・ビジネス諸活動の望ましい在り方について討論や考察を行う。
 - ・地域や産業界と連携、共同して課題解決に取り組む。

- ④経済社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てる。
 - ・実際のビジネスに即した体験的学習を充実させる。
 - ・経済社会の発展に主体的に貢献する意欲の高揚を図る。

現在、商業科の授業においては資格を取得させることで、学習に対する意欲の向上を図ることが多い。しかし、商業科の学習が目指すものは、資格を取得するだけにどどまらず、新学習指導要領を踏まえ、ビジネスの諸活動を主体的、合理的に行い、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人を育てることである。

商業を学ぶ生徒は、将来何らかの経営体の組織の一員としてビジネスの諸活動に参加することになるから、商業の学習においてビジネスの諸活動に目を向けさせる必要がある。

そのためには、経済社会とのかかわりの中で、生徒自ら考察させることを通して理解させるとともに、新聞、放送、インターネットの活用を図る必要がある。また、基礎的・基本的な知識・技術

の習得にとどまらず、自ら課題を見つけ、解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身に付け、商業の学習とビジネスの諸活動とを結び付けることで、ビジネスに関心をもたせ、学習活動を充実させる必要もある。そこで、本調査研究では、ビジネス等の資料を活用して生徒が主体的に創造的な情報編集や考察、説明するなど思考力や表現力を伸ばすための授業実践を目指した。実践内容は次のとおりである。

事例 1 ビジネスの諸活動に目を向けさせ、専門的な学習への動機付けを図る指導の工夫

事例 2 利害関係者に提供された会計情報を基に、企業の経済活動について主体的に考察させる指導の工夫

事例 3 ビジネスの諸活動において、情報を主体的に活用させ、表現させる指導の工夫

これらの事例は、グループでの調査研究を通して学習内容とビジネス活動と関連付けた実践例であり、各分野の学習において、顧客満足実現能力、会計情報活用能力、情報活用能力を育てることとした。生徒の実態に合わせ、これらを参考に活用していただければ幸いである。

3 ビジネスの諸活動に目を向けさせる指導の実践例

事例1 ビジネスの諸活動に目を向けさせ、専門的な学習への動機付けを図る指導の工夫

1 ねらい

新学習指導要領において「ビジネス基礎」は、原則履修科目として位置付けられ、商業科の基礎的・基本的な内容で構成されている。この科目は、より専門的な学習への動機付けや卒業後の進路について、生徒の意識を高めることを目的としている。

指導に当たっては、商業教育全般の導入として基礎的な内容を取り扱うとともに、単に知識や技術の習得にとどまらず、新聞、放送、インターネットなどの活用、経済活動の具体的な事例を取り上げたケーススタディやグループでの考察などを通して、経済活動の動向に着目させることが大切である。

本事例では、科目「ビジネス基礎」の調査研究を行った。

ビジネスの諸活動の一つである販売促進に目を向けさせ、身近な企業の販売促進を通して考察させるとともに、同業種間での販売促進の違いに気付かせ、商業に対する興味・関心を高めることをねらいとした。「ビジネス基礎」は、商業教育全般の基礎的な内容で構成され、低学年で履修される科目である。そのため、今後学んでいく商業の科目の導入として身近なものを題材として取り上げ、経済社会の動向に着目させることで、商業の科目に対する興味・関心が高まることを期待した。また、調べた内容を発表したり、文章でまとめたりする活動を通して、表現力を育成することも目指した。

2 授業実践

(1) 指導内容

- ・企業活動におけるマーケティングの中から販売促進の重要性とその内容について理解させる。
- ・興味・関心のある業種の販売促進の方法についてインターネット等を利用し調べ、班内で意見交換することで企業の販売促進に関する捉え方を考察させる。
- ・自分自身で調べたことや、他の班の発表から各業種についての販売促進を理解させる。

(2) 評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
①販売促進についての自分の考えを班の中で積極的に話し合っている。	①販売促進について様々な角度から考察するとともに活動の概要と変化を捉えている。	①調べた情報を活用して、販売促進の活動の概要及びその動向について把握している。	①販売促進の基本的な知識を身に付け、その役割や活動の概要を理解している。
②販売促進について関心を持ち、その活動について、意欲的に調べたりまとめたりしようとする。	②自ら調査対象を定め、調べたり、他者の意見も聞くことで様々な角度から主体的かつ客観的に考察している。	②収集した情報を的確に文章にまとめている。 ③まとめた資料を活用して発表している。	②業種による販売促進の違いを理解している。

(3)単元の指導計画

時間	学習内容	評 価					
		関	思	技	知	評価規準	評価方法
1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 班ごとに調べる業種を決める。 ・ 各業種における販売促進について考えられることを書き出す。 	①			①	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の考えを積極的に発言している。 ・ マーケティング活動の一つに販売促進があることを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート 発言 行動観察
2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各業種について販売促進だと思うことを班で話し合う。 ・ ブレインライティングを用い意見を集約する。 	①	①			<ul style="list-style-type: none"> ・ ブレインライティングを用いた中で調査対象に基づき積極的に話し合いを進めている。 ・ 他者の意見も聞くことで様々な角度から主体的かつ客観的に考察している。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート 発言 行動観察
3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 班で決めた調査対象についてインターネットや新聞等の情報源を活用し調べる。 ・ 発表に向け調べた内容をまとめる。 	②		①		<ul style="list-style-type: none"> ・ 多大な情報の中から調査対象に沿って必要な情報を選んでいる。 ・ 収集した情報を的確に文章にまとめている。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート 行動観察
4	<ul style="list-style-type: none"> ・ 班ごとにまとめた内容を簡潔に発表する。 ・ 各業種での販売促進について感じたことを文章でまとめる。 			③	②	<ul style="list-style-type: none"> ・ 調べて理解した内容と、考察した内容とを明確に区別し発表している。 ・ メモを取るなど、情報を得る工夫をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート 行動観察 発表

(4)授業の概要

ア. 1時間目の授業

段 階	学習活動	指導上の留意点
導 入	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の学習内容の予告と教科書における内容を確認する。 	
展 開	<ul style="list-style-type: none"> ・ 販売促進についての説明を聞き理解する。 ・ 販売促進であると思う点についてワークシートに書き出す。 ・ 班ごとに調べる業種を決定する。 ・ 各業種における販売促進について考えられることを書き出す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ マーケティング活動の一つに販売促進があることを理解させる。 ・ 各自が販売促進であると思う点についてできるだけ数多く書き出させる。 ・ 自由に発言できる雰囲気をつくる。 ・ 各自が販売促進だと考えられることを文章で表現させる。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次時の学習内容の概要をつかむ。 	

第1学年を対象に授業実践を行った。1時間目を実施するにあたり、クラスを8班に分け、班編成をしておいた。本時では、販売促進について説明し、いかにして自社のサービスや商品の情報を消費者に提供して市場を開拓し、サービスを維持し、消費者の利用を定着させるかを考えさせた。その後、生徒に販売促進であると考えられることをワークシート【資料1】へ書き出すよう促し、販売促進に対する考えを整理させた。この一連の学習活動から、生徒の主体的な学習から商業に対する関心・意欲を高めるようにした。

各自ワークシートに記入後、班ごとに調べる業種を決めさせた。生徒は、ワークシートにまとめたことを中心に検討を進めた。その際、他の意見を尊重させ、発言をしやすい雰囲気になるよう配慮した。各班で業種が決定した後、業種における販売促進であると思われることをワークシート【資料1】へ書き出させたが、今後の話し合いの中で多面的に考察させるため、考えられることをできるだけ多く書き出すよう促した。生徒は、実際の企業が行っている販売促進に対して、興味・関心をもって取り組んでいる姿が見られた。

なお、本時で、各班が調べようとしている業種を以下【表1】のとおり決定した。

【資料1】

～ マーケティング活動 販売促進 について考えよう ～

1年 組 番 氏名 _____

1. 販売促進とは・・・
2. 販売促進の内容にはどのようなことがあるか書き出してみよう。
3. 班で調べる業種を決めよう。
4. 上記の業種における販売促進について考えられることを書き出してみよう。
5. 班で調べるテーマを決めよう。

【表1】

各班で検討した調査対象（業種）	
1班	コンビニエンスストア
2班	スーパーマーケット
3班	餃子店
4班	大型家具店
5班	ハンバーガーチェーン店
6班	牛丼チェーン店
7班	レンタル店
8班	家電量販店

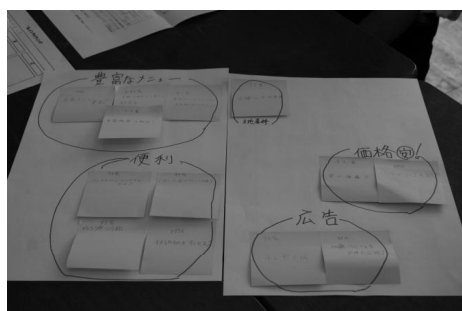
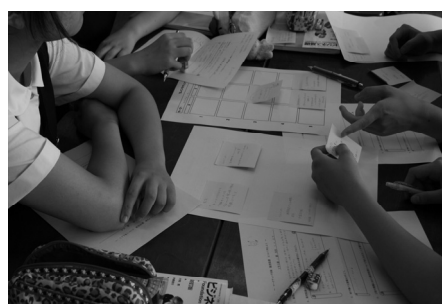
イ. 2時間目の授業

段階	学習活動	指導上の留意点
導入	・本時の活動内容を把握する。	
展開	・ブレインライティングを用いて意見を集約する。 ・班ごとに調べる業種の販売促進であると思う点について話し合う。 ・班で調べる業種やキーワードをまとめる。	・ブレインライティングを用いることで班員全員に発言の場を与え、積極的に話し合いに参加させる。
まとめ	・次時の学習内容の概要をつかむ。	

前時にワークシート【資料1】に記入したものを班ごとに検討させた。この学習活動では、多くの意見や事例が挙げられたりすることが予測されるため、ブレインライティングを学習活動に取り入れ、班ごとに意見を集約させた。付箋を活用して班の全員に発言の機会を与えるようにしたため、消極的な生徒も意見を述べる事ができた。この学習活動は多くの生徒に好評であった。それらの意見をグルーピングして共通項目や課題など明確にすることができた。各自が積極的に意見を出し合う雰囲気生まれ、話合いがスムーズに進んだように思われる。話合いを進める中で、適宜助言をしたが、自主的・主体的な学習活動を進めさせるために、生徒に自由な発想から販売促進を検討させ、業種及びキーワードをまとめさせた。各班で調べる内容は以下のようになった。

○業種及びキーワード

〈1班〉 コンビニエンスストア	・販売方法	・カード	・季節商品	・店舗設計、運営	
〈2班〉 スーパーマーケット	・価格設定	・ポイント制	・チラシ広告		
〈3班〉 餃子店	・価格設定	・広告方法			
〈4班〉 大型家具店	・サービス	・店舗、立地	・価格設定	・流通経路	・広告
〈5班〉 ハンバーガーチェーン店	・広告宣伝	・価格設定	・店舗運営		
〈6班〉 牛丼チェーン店	・価格設定	・広告	・メニュー設定	・店舗設計	
〈7班〉 レンタル店	・サービスの違い				
〈8班〉 家電量販店	・ポイントカード	・販売方法	・立地		



付箋を用いて意見を集約して販売促進をまとめている様子

ウ. 3時間目の授業

段階	学習活動	指導上の留意点
導入	・本時の活動内容を把握する。	
展開	・前時に決めた業種やキーワードをインターネット等を活用して調べる。 ・同業種の企業間で販売促進を比較し、「発表用原稿」をまとめていく。 ・発表時に用いる資料等をまとめる。	・班ごとに調査対象に沿って各自が調べた結果をまとめさせる。 ・発表を想定した上で原稿をまとめさせる。
まとめ	・次時の学習内容の概要をつかむ。	

前時に決めた業種やキーワードから、販売促進に関する内容について、インターネットを活用して調査するよう指示した。また、新聞、雑誌に掲載されている広告や、折り込みチラシ、ダイレクトメール等、インターネット以外で行われている販売促進に関わる情報の収集も指示をした。

各自が調査した内容を要約し、「発表用原稿」【資料2】にまとめさせた。次時は「発表用原稿」をもとに、班でまとめたものを発表することを予告した。

【資料2】

《発表用原稿》
～ マーケティング活動 販売促進 について考えよう ～

1年組 番 氏名 _____

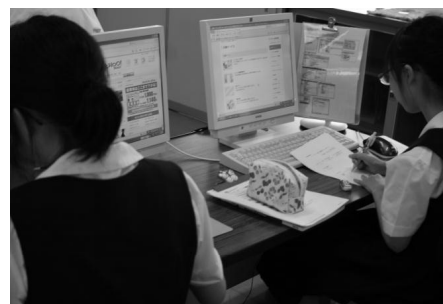
1. 私たち（ ）班は、『 _____ 』についての販売促進について「 _____ 」と「 _____ 」を比較して調べました。

2. 使用した資料等

- ・
- ・
- ・

3. 調べた結果

※箇条書きで簡潔に書いてみよう。



インターネットを活用した調べ学習を行う様子

生徒はインターネット等からの情報を活用し、班で検討した販売促進の共通点や相違点を確認しながら情報の共有化を図っていた。ビジネスの諸活動では情報の共有化は重要な要素であるので、学習の中で意識させることが大切である。

エ. 4時間目の授業

段階	学習活動	指導上の留意点
導入	・本時の活動内容を把握する。	
展開	・「発表用原稿」に沿って簡潔に発表する。 ・各班の発表を聞き、必要な情報をメモする。 ・各業種での販売促進について感じたことを文章でまとめる。	・聞き手にとって分かりやすい発表をさせる。
まとめ	・各業種での販売促進の違いについて理解する。	

各班が検討したワークシート【資料2】から、同種企業における販売促進の特徴など整理し、5分間で発表するよう指示した。また、発表を聞く側に対して、各班の発表について理解できたことや疑問点を発表評価シート【資料3】へ記入させた。

【資料3】

《発表評価シート》

～ マーケティング活動 販売促進 について考えよう ～

1年 組 番 氏名 _____

※各班の発表を聞いて他業種の販売促進についてまとめておこう。

() 班 ()

() 班 ()

() 班 ()

この学習活動の中で、聞く側の生徒も発表内容をメモしたり、自分たちの内容と比較しながら評価するなど、意欲的に授業に参加していた。班の発表内容を要約したものをいくつか紹介すると次のとおりである。

〈2班〉 スーパーマーケット A社・B社

発表内容

- ・ 販売価格の設定について、両社とも、例えば100円での売価設定ではなく 99円というように桁数を一つ下げることで、視覚的にも、心理的にも「安い」という印象をつけて、安さをアピールするようにしている。
- ・ 両社とも店内において、試食品や試供品の配布をしている。
- ・ A社は全国展開の大型スーパーであるが、ネットスーパーとしてもインターネット上で買い物ができる。
- ・ B社は曜日によって3倍ポイントセールや店頭朝市を実施して集中的な集客を狙っている。

〈5班〉 ハンバーガーチェーン店 A社・B社

発表内容

- ・ A社は年間を通して折り込みチラシを配布している。その結果、多くのお客様の目にとまり売り上げを伸ばしている。これに対して、B社では入学式や卒業式のなど、節目の行事で人の動きがある時期を狙い集中的にチラシ等を配布することでお客様を増やしている。
- ・ 価格設定においては、A社の平均単価は250円、B社の平均単価は370円となっている。
- ・ A社は品数を少なくすることでコストを抑え、低価格で販売している。一方、B社は品数が豊富で、価格が多少高くてもお客様のニーズに応えることにしている。
- ・ 店舗運営では、A社は店員数を増やすことで、お客様を待たせずに商品を早くお渡しするようにしている。B社はお客様がくつろげる空間の提供に心掛けている。また、A社は衛生面にも気を配り、ドリンク類は紙コップを使用し、リサイクルを行っている。B社は環境保護のため、店内ではグラスを使用している。両社とも環境には十分配慮している。

〈6班〉 牛丼チェーン店 A社・B社

発表内容

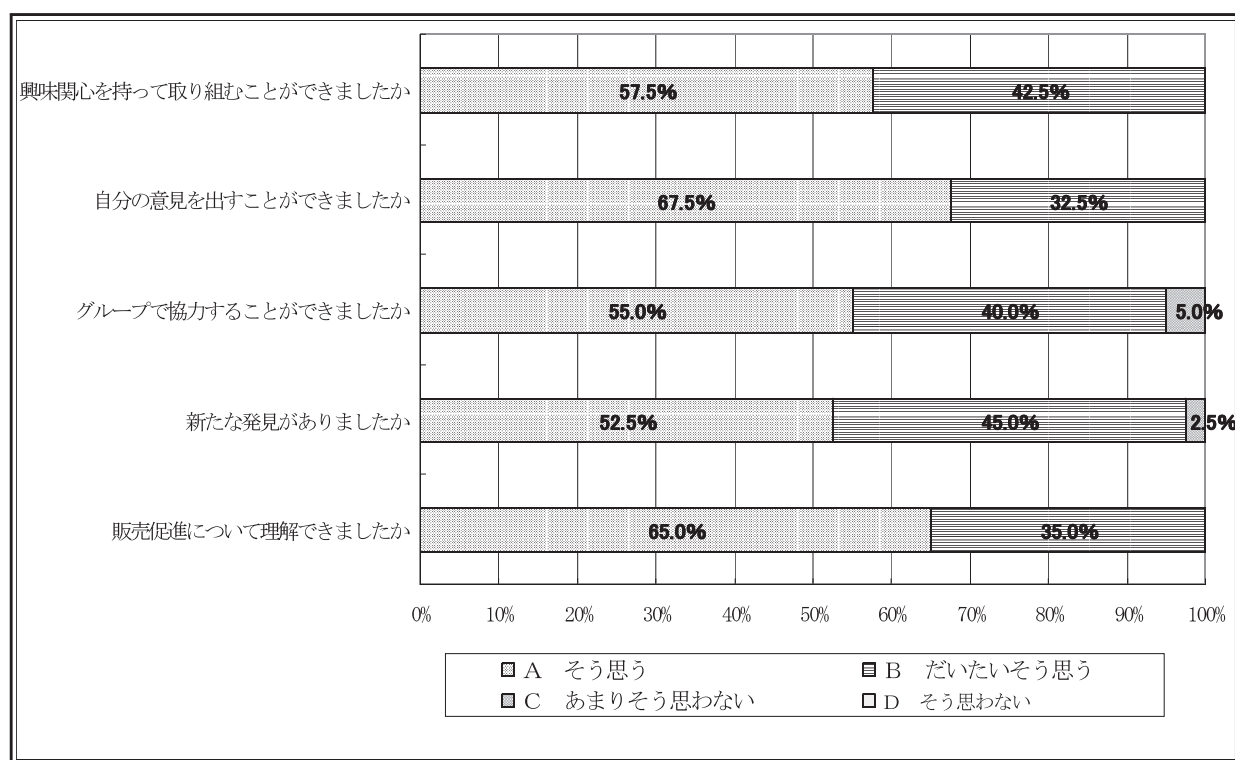
- ・ 両社とも共通していることは、①持ち帰り可能なメニューの設定、②季節限定メニューの設定、③好みに合わせてサイズを選べる、④店舗は外から店内が見えることでお客様が入りやすい雰囲気になっている。
- ・ 両社とも牛丼(並)が主力商品であり、いずれも低価格で設定され、安さをアピールしている。
- ・ A社は定食メニューがあり、カウンター席を多く設置することで回転率を上げているように思う。B社はお子様メニューの設定があり、家族が入りやすくしている。
- ・ A社はソフトドリンク半額キャンペーン、B社はトッピング30円引きキャンペーンを実施し、お客様を引きつけていると思う。

この発表から、同じ業種における企業でも、販売戦略の違いを明確にした販売促進を行うことで、消費者の購買意欲を引き出していることが理解できたようである。また、ビジネスの諸活動は、利益を優先に考えているのではなく、「お客様」を第一に考えて活動していることが、自分たちの資料や他の発表から理解することができたようである。

(5) 生徒による授業評価

4時間目終了後にアンケート用紙を配布し後日回収した。集計した結果【表1】は次のようになった。

【表1】



アンケートの結果から、生徒は、経済活動に着目することで興味・関心をもって取り組むことができた。また、グループ学習において、ブレインライティングを用いたことで、他者の意見を尊重しながら自分の意見を出すことができた。この学習活動はコミュニケーションを図る上で、効果的であった。

「ビジネス基礎」の学習とビジネスの諸活動を関連付けさせることで、理解度も高く、おおむね満足のいく結果となった。

今回の授業についての感想は次のとおりである。

- ・自分の調べた業種はもちろん、他の班の業種の販売促進についてもたくさんを知ることができた。これからは、調べたことに注意しながらお店を利用してみたい。
- ・今まで全く知らなかったことがたくさんあり驚いた。また機会があればこのようなグループで調べる活動がしたい。
- ・班で調べたから発見できたことや、新たな考え方など普段の授業では得られないことを学習できたと思う。
- ・グループで意見をまとめることは大変であったが、知らなかったことがよく分かったのでよかった。
- ・今まで一つのことを調べることはあっても複数のことを比較することがなかった。比較してみて初めて分かったことがたくさんあり、面白かった。
- ・普段利用しているお店には、たくさんの方の努力と工夫がされていることを知った。
- ・教科書だけでは知ることのできない様々なことを知ることができとても面白かった。これからもこのような調べ学習の場を増やしてほしい。

感想から、学習内容と経済活動と関連付けた一連の学習活動を通して、興味・関心をもって授業に取り組めた様子がうかがえる。この学習活動は、他の商業の科目にも主体的に学習するきっかけとなったようである。

3 まとめ

(1) 成果

本事例では、日常生活の中で、身近に利用している企業の販売促進について考察させることで、ビジネスの諸活動に対して興味・関心を高め、さらに、インターネットや新聞、広告など活用し具体的な企業の活動を調べたり、ブレインライティングによる意見集約、発表など、様々な活動を通して表現力を育成することを目指した。

アンケートからも分かるように、経済活動の具体的事例を取り上げることで、商業に対する興味・関心を高めることができた。また、調べ学習や発表を通して表現力を身に付けさせることができるということも確認できた。グループ学習活動では、生徒が積極的に意見を出し合い、事例について多面的に考察しようとする姿が見られ、ビジネスの諸活動を関連付けた授業の効果は大きいことが分かった。

授業後に生徒からは、さらに多くのことを調べてみたいという肯定的な意見が多数あった。今回の販売促進について調べるといふ学習活動を通して、消費者の視点に立ち、ニーズを適切にとらえ、顧客満足を実現するための能力「顧客満足実現能力」を養うことにつながった。このことから「ビジネス基礎」指導に当たっては、事例を取り上げたケーススタディやグループでの考察を通して、経済社会の動向に着目させることで、商業の科目に対する興味・関心を高め、その後学ぶ専門的な学習への動機付けにつなげていくことが必要である。

(2) 課題

本事例では、販売促進について意見の集約に至らなかった班もあった。このことから、各自が業種決定をし、テーマに沿って調べた後に班編成を行い、意見集約ができやすい環境をつくり、発表につなげてよかったのではないかとと思われる。その結果、各自の考えや疑問点が整理され、さらに充実したグループでの話し合いがなされたのではないかと考える。

「ビジネス基礎」は、単に知識の習得だけでは、専門的な学習への動機付けは難しい。しかし、商業においては、経済活動の事例を多くあげることが可能であることから、教師側が題材を精選する必要がある。そして、経済活動の事例を題材として授業に活用することで、話し合いや発表を通して表現力を育成することができると考えられる。

〈参考文献〉

『高等学校学習指導要領解説 商業編』 文部科学省 平成22年5月

事例2 利害関係者に提供された会計情報を基に、企業の経済活動について主体的に考察させる指導の工夫

1 ねらい

新学習指導要領において、「財務会計Ⅱ」では、「財務会計Ⅰ」の学習を基礎として、財務会計に関する基礎的な知識と技術の習得に重点を置き、利害関係者に会計情報を提供する能力と態度及び提供された会計情報を活用する能力と態度を育てる観点から、従来の「会計実務」の内容を再構築し、設けられた。改訂では主として、資産会計、負債、純資産会計、財務諸表の活用及び監督と職業会計人の職務に関する内容を取り入れることがねらいとして挙げられる。

「財務会計Ⅱ」では、(1) 財務会計の基本概念と会計基準、(2) 貸借対照表に関する会計、(3) キャッシュ・フロー計算書、(4) 企業集団の会計、(5) 財務諸表の活用、(6) 監査と職業会計人の6項目で構成されている。今回の研究では、会計情報を活用させるという視点から、(5) 財務諸表の活用に焦点を当てた。(5) 財務諸表の活用では「企業価値の評価、連結財務諸表分析、財務諸表と株価の関連を取り扱い、財務諸表を活用するための基本的な知識と技術を習得させる」ことがねらいとされている。

これを踏まえて、本事例では科目「会計実務」の調査研究を行った。インターネットや情報機器などを活用し、各企業の有価証券報告書を取り上げ、そこから読み取れる経営成績や財政状態を分析・判断させ発表させた。この学習活動を通して、財務会計に関する知識と技術を習得させるとともに、利害関係者に提供された会計情報を基に、企業の経済活動について興味・関心をもたせ、主体的に考察させることを目標とした。また、ワークシートを活用して、有価証券報告書を分析させ、発表させるという言語活動を取り入れた。

なお、「財務会計Ⅱ」は新科目であるため、同じ学習効果が期待できる「会計実務」の単元「連結情報の利用（有価証券報告書）」を発展させた学習として位置付けた。

2 授業実践

(1) 指導内容

- ・有価証券報告書の目的や主な記載事項を理解させる。
- ・企業を選択し有価証券報告書に関連付けて、財務分析したものをまとめ、発表させる。
- ・学習活動を通して得られた分析結果を踏まえ、法的根拠に基づき客観的な視点からまとめさせる。

(2) 評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
①有価証券報告書の内容に関心を示し、意欲的に読み取ろうとしている。	①有価証券報告書を活用し、企業情報を適切に分析している。 ②有価証券報告書の分析結果を分かりやすくまとめている。	①有価証券報告書についてまとめた資料を活用し、分析結果を明瞭に表現している。	①企業における有価証券報告書に関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。

(3) 単元の指導計画（5時間）

時間	学習内容	評 価				
		関	思	技	知	評価規準
1	○有価証券報告書の主な記載事項を紹介する。	①				・有価証券報告書の内容に関心を示し、意欲的に読み取ろうとしている。
2 ・ 3	○興味・関心のある企業の有価証券報告書をインターネットを活用し分析する。		①		①	・有価証券報告書を活用し、企業情報を適切に分析している。 ・企業における有価証券報告書に関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。
4	○有価証券報告書を分析した内容を分かりやすくまとめる。		②		①	・有価証券報告書の分析結果を分かりやすくまとめている。 ・企業における有価証券報告書に関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。
5	○有価証券報告書の分析した内容を分かりやすく発表する。		②		①	・有価証券報告書の分析結果を分かりやすくまとめている。 ・分析結果を明瞭に表現している。

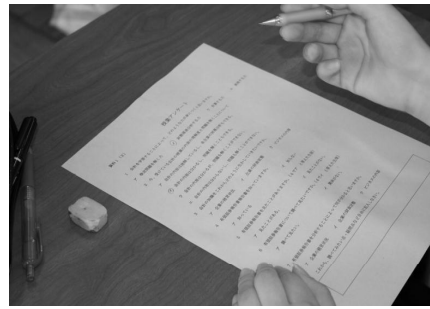
(4) 授業の概要

ア. 1時間目の授業

段 階	学習活動	指導上の留意点
導 入	・授業に関するアンケートに回答する。 ・単元の学習内容の予告と教科書の内容を確認する。	
展 開	・有価証券報告書の意味と内容を理解する。 ・調査したい業種・企業について検討する。	・教科書に記載されている有価証券報告書を説明する。 また、売上高や当期純利益などの推移は、実数を用いて解説する。
まとめ	・次時の学習内容の概要をつかむ。	・次時はインターネットを活用し、有価証券報告書を調べることを予告する。

実践は第3学年を対象に行った。1時間目の授業に先立ち、生徒を6班（1班6名～8名）に編成した。また、2年間学習してきた簿記会計分野についての知識と単元で活用する有価証券報告書の理解状況を把握するために、アンケート調査【資料1】を実施した。有価証券報告書は、金融商品取引法で規定された事業年度ごとに作成する企業内容を外部へ開示する資料であり、決算書だけでなく、企業沿革、資産保有、事業上のリスク、財政状態、経営成績及びキャッシュフ

ローの状況分析等が記載されている。このため、有価証券報告書を読むことを通して、簿記会計とビジネスの実務を関連付けて考察させることは、学習内容をさらに深化させるための有効な手段であると考えた。



授業アンケートに記入している様子

○授業アンケート

日頃、授業において実務を意識しているか、調査を行った。【資料1】

【資料1】

授業アンケート

1 会計を学習することによって、どのような力が身に付くと思いますか。
 ア 検定問題を解く力 イ 財務諸表分析する力 ウ 計算する力 エ 表現する力

2 今、受けている会計の授業の内容の理解度と問題を解くことについて
 ア 会計の内容は理解しており、各企業の財務分析もできる。
 イ 会計の内容は理解しており、問題を解くことができる。
 ウ 会計の内容は理解しているが、問題を解くことができない。
 エ 会計の内容は理解できず、問題も解くことができない。

3 会計の知識をこれからどのように活かしていきたいですか。
 ア 企業の経営状況 イ 企業の財政状態 ウ ビジネスの内容

4 有価証券報告書報告書を知っていますか。
 ア 知っている イ 知らない

5 有価証券報告書を見たことがありますか。(4でアと答えた生徒)
 ア 見たことがある。 イ 見たことがない。

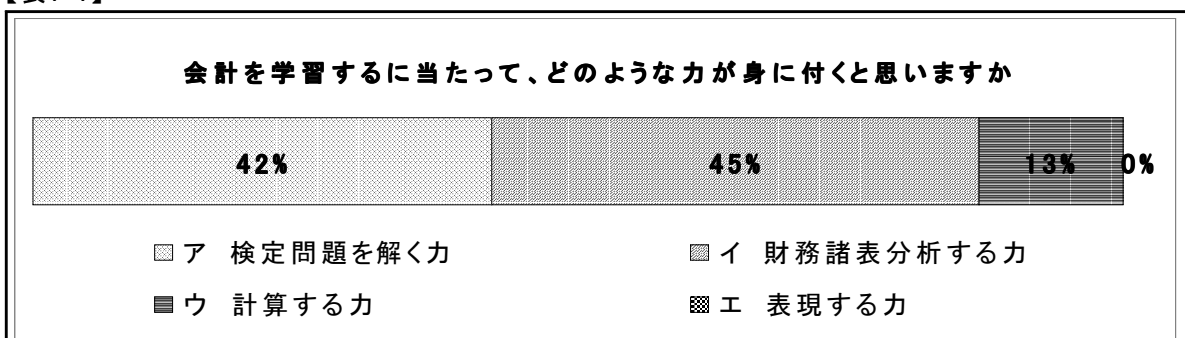
6 有価証券報告書について調べてみたいですか。(4でイと答えた生徒)
 ア 調べてみたい。 イ 興味がない。

7 有価証券報告書を分析することによって何が分かると思いますか。
 ア 企業の経営状況 イ 企業の財政状態 ウ ビジネスの内容

8 これから、調べてみたい点・疑問点など自由に記入しなさい。

○授業アンケートから

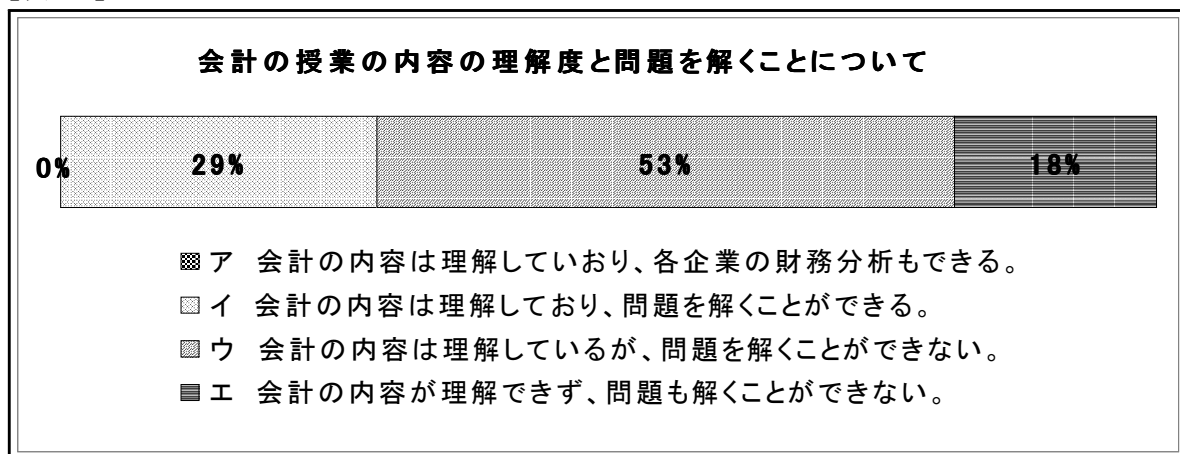
【表1-1】



「会計を学習することによって、どのような力が身に付くか」についての主な回答は、「検定問題を解く力」42%と「財務諸表分析する力」45%とほぼ同程度に分かれた【表1-1】。

生徒は、検定学習の意識が高いにもかかわらず、「検定問題を解く力」と答えた生徒より、「財務諸表分析する力」と答えた生徒がやや多かった。生徒は資格取得にとどまらず、企業の経営に関心を持ち、主体的に実務に即した力を身につけたいと考えていることが分かる。

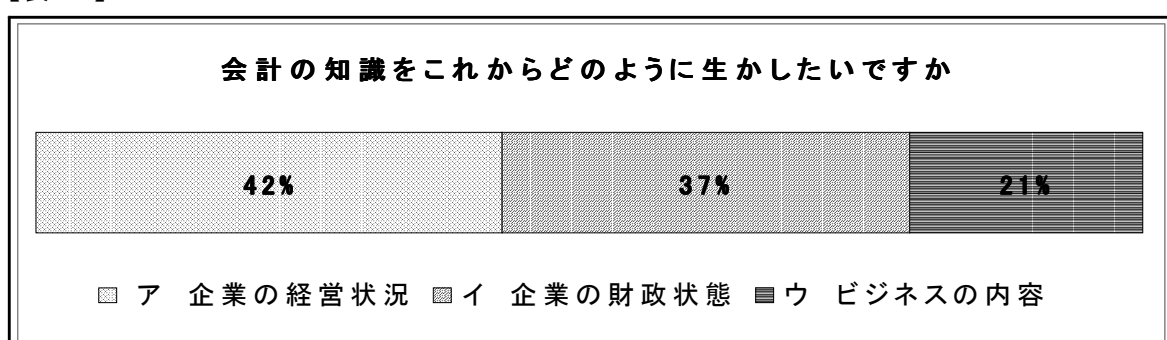
【表1-2】



「授業の理解度」については、「授業が分かる」と回答した生徒（アまたはイと回答した生徒）は、全体の29%であり、「授業が分からない」と回答した生徒（ウまたはエと回答した生徒）は、全体の71%であった【表1-2】。

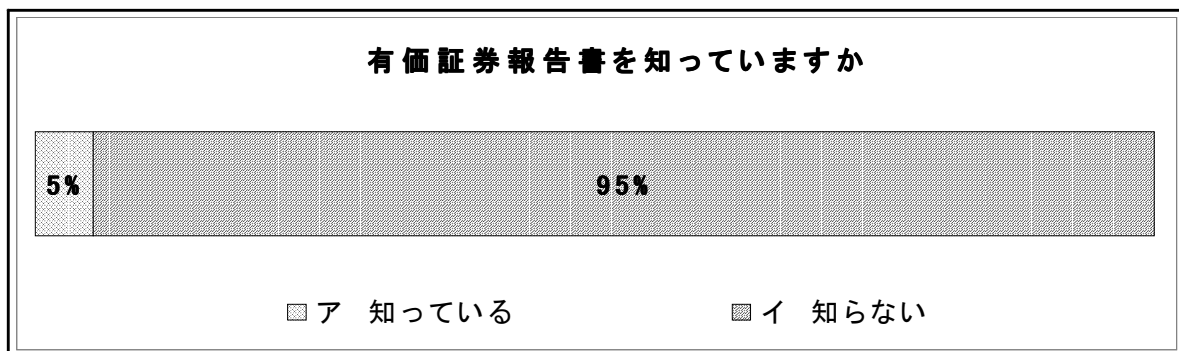
この結果は、教師や生徒にとって簿記・会計の授業の目的が「資格取得」となり、授業が解法のテクニックや過去問題のパターン学習になりがちであることに深い関連があると考えられる。検定試験の合格を目指し、解法のテクニックや基本的なパターンを覚えて結果を求めてしまうことで、授業では表面的な理解にとどまり、知識の定着が図れない。このような状態では、専門的知識を習得しても実務につなげることは難しく、専門性の深化を図ることができなくなることが考えられる。

【表1-3】

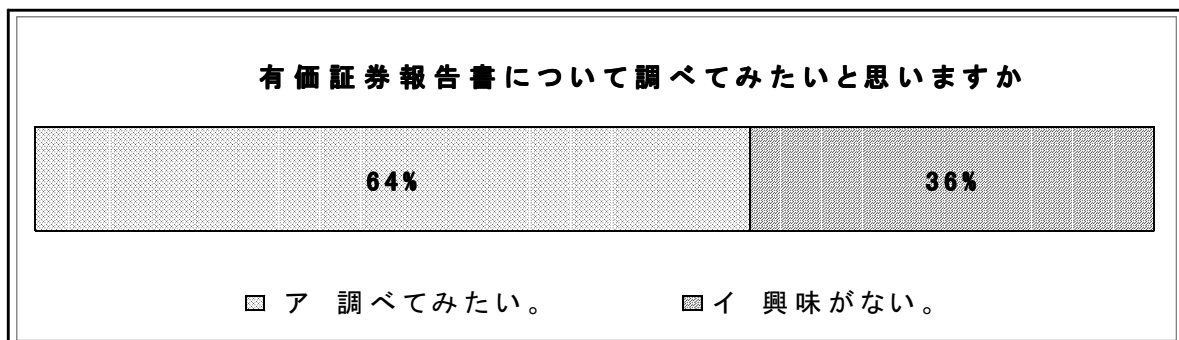


生徒は、すでに財務諸表（損益計算書・貸借対照表・キャッシュフロー計算書等）を学習しており、約80%近くが「企業の経営状況」、「企業の財政状態」と回答している【表1-3】。このことから、商業で学び得たことをビジネス社会のなかで活用していきたいという意欲的な姿勢に結び付いている。

【表1-4】



【表1-5】



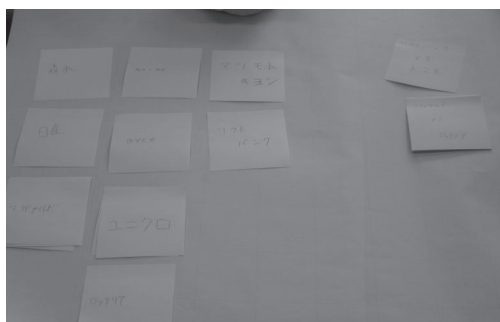
有価証券報告書をほとんどの生徒が知らないという回答【表1-4】であったが、有価証券報告書について興味・関心をもつ生徒は64%であった【表1-5】。自分たちが学んでいるものと実際のビジネス活動の関連性について、興味・関心をもっていることがうかがえる。

○これから、調べてみたい点・疑問点など自由に記入してください。

- ・いろいろな会社の経営状況。
- ・企業の損益計算書や貸借対照表を見てどういう点にお金を使っているか調べたい。
- ・大手有名企業の経営成績を調べてみたい。
- ・キャッシュ・フローについて知識を深めたい。
- ・どのくらい会計が世の中で大切なのか。
- ・学んだことを生かして企業の財政状態について調べてみたい。
- ・企業がどのような経営方針で企業を運営しているのか。
- ・会社や企業に出る経営状況の資料の見方を調べたい。
- ・今学習している内容が実際には、どのように生かされているのか。

自由記述から、生徒の企業における実務について興味・関心がうかがえる。生徒は授業内容の理解にとどまらず、現在学習している内容と実際の実務との関連性など、学びの中で企業の経済活動を主体的に考察しようとしている。このことは、会計情報活用能力を育てる重要な意味をもつと考えられる。

アンケートを踏まえ、ビジネスの諸活動に目を向けさせるための指導として、有価証券報告書の概要を理解させるとともに、付箋に興味・関心のある企業や、今後、経済社会において注目されるであろう企業を書かせた。また、その企業を選んだ理由も記入させ、模造紙に貼ってグルーピングをさせ、調査したい業種・企業について各班で検討させた。



付箋を使い企業名を挙げる



付箋を活用し、グルーピングしてまとめている様子



調べたい企業を黒板に掲示している

○調査テーマ

- 1班 幅広い年齢層に人気のあるテーマパークについて考察する。
- 2班 世界的に有名な日本の電気産業を考察する。
- 3班 世代を超えて人気のあるファーストフード産業を考察する。
- 4班 世界的な経営戦略を展開する日本の自動車産業を考察する。
- 5班 スマートフォンが注目され、インターネット上で経営するIT産業を考察する。
- 6班 世界中に店舗展開を行い、コーヒー販売等、特色ある販売戦略を行っている企業を考察する。

イ. 2時間目の授業

段階	学習活動	指導上の留意点
導入	・調査テーマの確認と有価証券報告書の確認をする。	
展開	・前時に挙げた企業の中から、インターネットを活用して、グループごとに有価証券報告書を調べる。 ・前時で調査テーマとした企業の有価証券報告書を分析する。	・企業のイメージではなく、データから客観的に分析させる。
まとめ	・調べた有価証券報告書の内容をまとめる。	

2時間目は、インターネットを活用することにした。本時では有価証券報告書の内容を確認させるとともに、有価証券報告書に関する法規や利害関係者にどのように会計情報を提供しているのかなども確認させ、有価証券報告書の概要を把握させた。また、各班の調査テーマが発表する内容として適しているかどうか、班ごとに再度検討するよう指示した。



インターネットを活用し、有価証券報告書を調査している様子



調査テーマが発表として適しているかどうかを、有価証券報告書を基にして検討している様子

ウ. 3時間目の授業

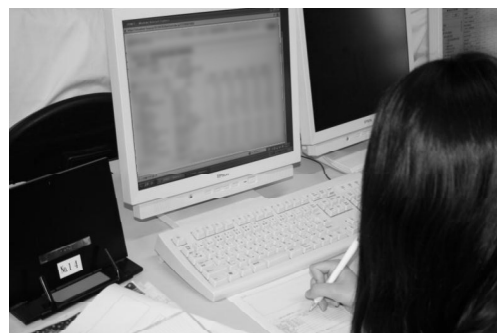
段階	学習活動	指導上の留意点
導入	・調査する企業の有価証券報告書を確認する。	
展開	・ワークシート（発表用調査資料）【資料2】をもとに、情報を整理し、共有する。 ・有価証券報告書から経営分析などを行う。 ・発表原稿や資料の構成を行う。	・有価証券報告書の分析結果を整理させる。 ・発表用資料は、プレゼンテーションソフトを活用し工夫させる。
まとめ	・本時に調べた内容をまとめる。	

3時間目は、前時に調査した企業のうち、関心をもった企業を絞り有価証券報告書を活用して調査した。

有価証券報告書の調査に際し、分析結果を聞き手側に伝えるために「有価証券報告書から見えるもの」というワークシート（発表用調査資料）【資料2】を基に、整理した情報を共有できるように指示した。日頃の授業とは違い、財務諸表の数値だけでなく、企業の沿革や事業の内容、従業員の数や平均年齢・平均給与等も調査するように指示した。この調査は企業の全体像を把握することがねらいである。

企業の沿革を調査することにより、その企業の歴史が理解でき、生徒はより関心を持った様子であった。本時に調査した内容をグループごとにまとめる活動も、積極的に行っていた。有価証券報告書を基にして調査した項目及び学習活動は、以下のとおりである。

- ①「第一部企業情報」の「第1 企業の概況」について記載されている主要な経営指標を調べる。
- ②「第一部企業情報」の「第1 企業の概況」における沿革・事業の内容に関する記述を参照して、企業の歴史と主要な事業と考えられる事業を取り上げるとともに、それぞれの事業内容を要約する。
- ③「第一部企業情報」の「第1 企業の概況」における関係会社の状況に関する記述を参考に、子会社1社及び関連会社1社を取り上げ、その会社の状況をまとめる。
- ④「第一部企業情報」の「第1 企業の概要」における従業員の状況に関する記述を参照してまとめる。



ワークシート【資料2】に有価証券報告書の内容をまとめている

ワークシート【資料2】

発表用調査資料 有価証券報告書から見えるもの

班
私たち 班は、 における有価証券報告書について調べました。

1 企業の経営成績

企業名	
年度	
売上高	
売上総利益	
営業利益	
経常利益	
当期純利益	
直営	
フランチャイズ	

○上記の内容から分かったこと

2 企業の財政状態及び安全性分析

決算年月日	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月
売上高 (単位:百万円)			
税引前利益 (単位:百万円)			
当期純利益 (単位:百万円)			
純資産額 (単位:百万円)			
自己資本比率			
自己資本利益率			
株価収益率			
従業員数			

○上記の内容から疑問点や気づいたこと

3 企業の沿革

年月	概要

4 企業の主要な事業

事業の名称 (事業の種類)	事業の内容についての要約
報告セグメント	
その他	

5 企業の主な子会社及び関連会社 (1社)

○子会社

名称	住所	資本金又は出資金	主要な事業の内容	議決権の所有割合

○関連会社

名称	住所	資本金又は出資金	主要な事業の内容	議決権の所有割合

○企業の主な子会社及び関連会社 (1社) における従業員の状況

従業員数 (名)	平均年齢	平均勤続年数	平均年間給与

○上記の内容から疑問点や気づいたこと

6 企業のリスクについて

7 設備投資の状況について

事業の名称 (事業の種類)	設備投資	
	金額	前年同時期比 (%)

8 企業の主な株主

氏名又は名称	住所	所有株式数	発行済み株式数に対する所有株式割合

9 財務諸表数値 (一部)

	連結財務諸表の数値	個別財務諸表の数値
総資産		
自己資本		
売上高		
売上総利益		
営業利益		
経常利益		
当期純利益		

○上記の内容から疑問点や気づいたこと

※ワークシート「有価証券報告書から見えるもの」【資料2】について

有価証券報告書を主体的に活用し発表できるように配慮した。有価証券報告書から調査項目を絞り、共通した視点をもって経営分析を行うことにした。

これは、他の班と自分の調査とを比較しやすくするため、また、評価の基準値も設定しやすくするためである。

調査内容は「第一部企業情報」

「第1 企業の概要」

「第2 事業の状況」

「第3 設備の状況」

「第4 提出会社の状況」

「第5 経理の状況」

をさらに細分化して調査項目とした。

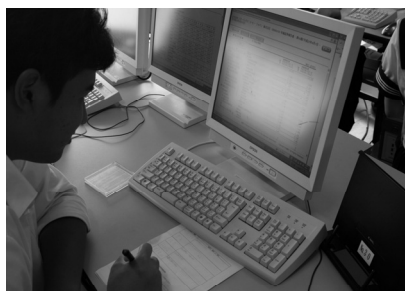
まとめやすい形でワークシートを提示することで、生徒が自主的・主体的に学習活動できるように工夫した。

エ. 4 時間目の授業

段階	学習活動	指導上の留意点
導入	・前時に調べた内容を確認する。	
展開	・ワークシート（発表用調査資料）【資料2】を基に、情報を整理し共有する。 ・有価証券報告書から経営分析などを行う。 ・有価証券報告書を基に、まとめた内容を整理する。 ・発表用の資料をプレゼンテーションソフトを活用し、発表の準備を行う。	・分析した結果にとどまらず、その結果から感じた疑問点や気付いた点についてもまとめさせる。
まとめ	・次回の学習内容の概要をつかむ。	

4時間目は、有価証券報告書から経営分析を行った。生徒は、経営分析を通して企業の全体像や特徴などが把握できてきたようで、主体性をもって取り組んでいた。有価証券報告書を基にして調査した項目及び学習活動は、以下のとおりである。

- ①「第一部企業情報」の「第2 事業の状況」における事業等のリスクについてまとめる。
- ②「第一部企業情報」の「第3 設備の状況」における設備投資等の概要に関する記述を参照して、当期の設備投資についてまとめる。
- ③「第一部企業情報」の「第4 提出会社の状況」から会社を誰が支配しているのかをまとめる。
- ④「第一部企業情報」の「第5 経理の状況」に記載されている連結財務諸表及び個別財務諸表を参照して、財務諸表数値を記入する。



発表用の資料をグループでまとめている様子

授業の後半から、次時に発表する準備として、プレゼンテーションソフトを活用してスライドを作成した。発表時間は5分間であるため、調査・分析結果など発表を通して伝えたいことを整理・工夫するよう指示した。生徒は、校内での課題研究発表大会に向け、プレゼンテーションソフトを活用して資料の作成等を行っており、要点をおさえた内容に仕上がった。

オ. 5 限目の授業

段階	学習活動	指導上の留意点
導入	・本時の活動内容を確認する。	
展開	・「発表用原稿」に基づいて発表する。 ・聞く側は、「発表評価シート」【資料3】を活用しながら、	・各班5分以内 ・発表内容に対する疑

	メモをとる。 ・発表について、「発表評価シート」【資料3】に評価をする。	問点など、ワークシートに記入させる。
まとめ	・授業に関するアンケートに回答し、学習活動全体を振り返る。	・有価証券報告書は、単なる決算書ではなく、企業の情報を提供するために作成されている点を再確認させる。

5時間目は、大型モニタを活用して発表を行った。各班ともプレゼンテーションソフトを活用して発表時間内に発表することができた。いずれもワークシート【資料2】を基にした内容であったため、分かりやすい発表であった。また、話し手の一方的な発表にならないように、聞き手に対しても「発表評価シート」【資料3】を活用して、発表に対して自分の意見を数値等で評価させた。なお、各班の調査するテーマ及び発表内容要旨【資料4】は下記のとおりである。



発表の様子

【資料3】

発表評価シート	
番 名 前	
1 他の班と比較して、自分の班の発表はどうでしたか。	
ア とても良くできた イ あまり納得できなかった ウ 出来が悪かった	
2 他の班の発表を評価してみましょう。	
評価	感 想
1 班	
2 班	
3 班	
4 班	
5 班	
6 班	
3 とても良くできた 2 あまり良くできなかった 1 できなかった	
3 どの班の発表が一番良かったですか	
班	理 由



発表を聞いて評価している様子

【資料4】

調査するテーマ及び発表内容要旨

* は、発表において、生徒からの発表に対して評価が高かった部分。

	調査するテーマ	発表内容要旨
1班	○幅広い年齢層に人気のあるテーマパークについて考察する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 有価証券報告書から、①投資などが適切なタイミングで出来ないためにクオリティが低下したことによる入園数の減少、②キャストの不足によりクオリティが低下することによる入園数の減少、③アトラクションなどの製品の事故、④情報管理など危機管理に取り組んでいることが読み取れた。 ・ テーマパークやホテルの経営・運営を主としている。また、鉄道事業及び不動産業も手がけている。 ・ 子会社はすべて近隣にある。 ・ <u>アトラクションなどの乗り物事故による損失はあるのか、年間の水道光熱費はどのくらいかかるのか、疑問である。</u> ・ 従業員の平均年齢が高い。 ・ ブランドイメージが強い。
2班	○世界的に有名な日本の電気産業を考察する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>大株主が所有する株式数が1億を超えており、様々なリスクに対して備えている。</u> 元々は電気会社であるが、現在は、住宅事業や映像・音響機器事業などの業種を超えた幅広い事業を展開している。 ・ 世界中に輸出しているため、円高になると利益損失など悪影響を及ぼす。 ・ 個別財務諸表の売上高は連結の半分を占めているのに当期純損失である。つまり、子会社の利益が大きいことが読み取れる。
3班	○世代を超えた人気のあるファーストフード産業を考察する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ リスクについて、鳥インフルエンザや風評被害にあわないためにどのような対策がされているのか疑問である。 ・ 販売業だけでなく、実行業務及び不動産賃貸業務も行っている。 ・ <u>海外から輸入品が多いので為替の変動が売上高や売上原価に大きな影響があった。</u> ・ 販売業だけでなく、実行業務及び不動産賃貸業務も行っている。 ・ 営業利益と経常利益の差があまりなかった。 ・ 企業大株主は外国の同会社2つが半数を占めている。
4班	○世界的な経営戦略を展開する日本の自動車産業を考察する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>個別と連結を比べると、個別では営業利益と経常利益が損失になっているが連結だと利益になっている。</u> ・ 関連会社と子会社が大都市、近郊に多い。他の会社の株式を多く持っている。 ・ 金融・経済、市場及び事業に関するリスクに備えている。 ・ 大手企業の中でも高い技術水準を保ち、企業としては健康である。

5 班	○スマートフォンが注目され、インターネット上で経営するIT産業を考察する。	<ul style="list-style-type: none"> ・売上高及び当期純利益は増加している。純資産も増加している。従って、自己資本比率も上昇しているが、自己資本利益率は下がっている。その原因は株価収益率の低下が関係していると思われる。 ・従業員数は三千人を超え、平均年齢は30代前半と低めだが、平均年間給与は6百万円を超える。 ・疑問点としてはなぜ平均年齢が低いのか、また、新たな事業を今後どのように発展させていくのだろうかという点が挙げられる。 ・<u>23年度に売上高を増加させることができたのは、ゲームサイト運営が理由ではないかと考えた。</u>
6 班	○世界中に店舗展開を行い、コーヒー販売等特色ある販売戦略を行っている企業を考察する。	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>コーヒー豆を扱う店のため、価格相場の変動や、自然災害による影響が利益に大きくかわる。</u> ・従業員数はどの年も2,000人以内で多くないが、パートの人数は従業員数の10倍近くある年もある。つまり、パートを多く雇うことによって<u>人件費を減らしコストダウンを図っている。</u> ・店頭販売だけでなく、ドライブスルーやコーヒー製品をコンビニエンスストアで販売するなど、販売形態が多様化している。大株主はA株式会社が所有株式割合が40.1%と高い。 ・環境負荷低減の取り組みにも積極的に参加し、店舗で排出される食品廃棄物を回収し、堆肥や飼料にリサイクルしている。

発表評価シートを集計した結果、1番高い評価を受けたのは、5班で19名（51%）であった。2番目に高い評価を受けたのは、1班で11名（29%）であった。

5班及び1班を支持した生徒が書いた理由は、以下のとおりである。

5班を支持した理由

- ・全員声が大きくて聞き取りやすかった。
- ・発表がスムーズで内容がまとまっていてとても分かりやすかった。
- ・発表資料も見やすく分かりやすかった。
- ・聞き手に対して、内容が理解できるように発表資料がまとめてあった。
- ・売上が何故伸びたのか明確になっており納得できた。
- ・重要と思われることがまとめられていた。

1 班を支持した理由

- ・問題点や疑問点について明確に述べており、私も一緒に考えることができた。
- ・スライド1つ1つが詳しく、とても見やすかった。
- ・発表する人も声が聞き取りやすく、分かりやすかった。
- ・自分たちの言葉で、分かりやすく丁寧に発表していたから。
- ・調べたことだけでなく疑問点を挙げたことが良かった。

5班と1班の評価が高かった理由としては、発表した生徒の声の大きさやプレゼンテーションの内容が挙げられる。分析をしていく中で、疑問に思ったことも発表の内容に含めていたことが特徴的であった。いずれの班も社会的に知られた業種を取り上げており、同世代に人気のある企業を調査・研究したことも、生徒の興味・関心につながったようである。

発表においては、指導者側が用意した資料や有価証券報告書をそのまま活用するのではなく、与えられた資料の内容を整理して、どこに発表のポイントを置くかを班で検討していた。プレゼンテーションソフトを活用したり、自分たちの言葉で、分かりやすく丁寧に発表した。また、調査・分析にとどまらず、班で考察した問題点や疑問点、分析結果に対する意見をまとめる様子が、各班とも共通して見受けられた。

授業の最後に、授業アンケートを実施した。詳細については、「授業後アンケート」【資料5】に記載したが、今回の調査・研究を通じて、以下のような生徒の感想を得た。

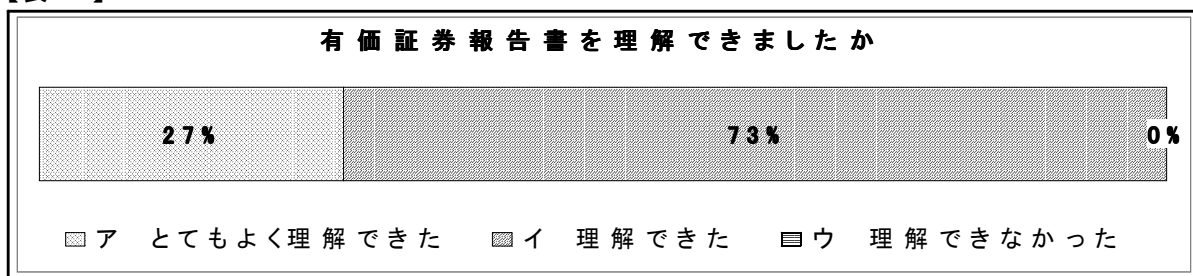
【資料5】

授業後アンケート			
1. 有価証券報告書を理解できましたか。			
ア とてもよく理解できた。	イ 理解できた	ウ 理解できなかった	
2. 有価証券報告書を活用して、また、企業を調査してみたいですか。			
ア 調査してみたい	イ 興味がない		
3. 有価証券報告書を調査する時、会計の知識が生かされましたか。			
ア 生かされた	イ 生かされなかった		
4. これから会計では、どの分野の知識を伸ばしていきたいですか。			
ア 企業の経営状況	イ 企業の財政状態	ウ ビジネスの内容	
5. 班内で協力して、活動を行うことができましたか			
ア 協力してできた	イ できなかった		
6. この活動を通してどんなことが身につきましたか			
ア 協調性	イ 探究心	ウ 財表分析	エ 発表態度
7. この活動を通して、感じたこと・考えたことなどを自由に書きなさい。			
<div style="border: 1px solid black; height: 40px; width: 100%;"></div>			

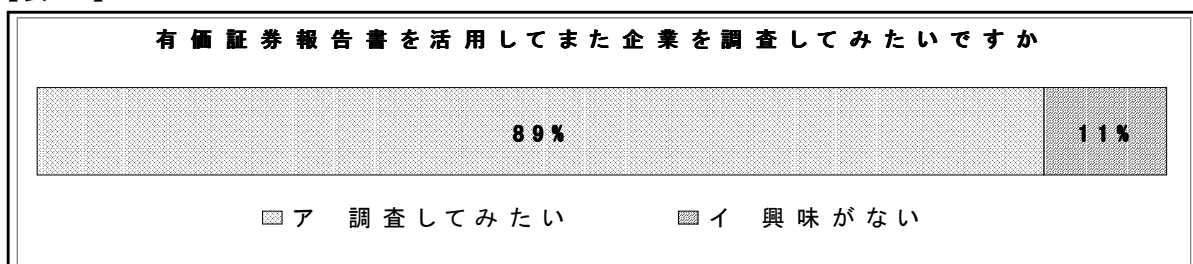


授業後にアンケートを記入している様子

【表2-1】

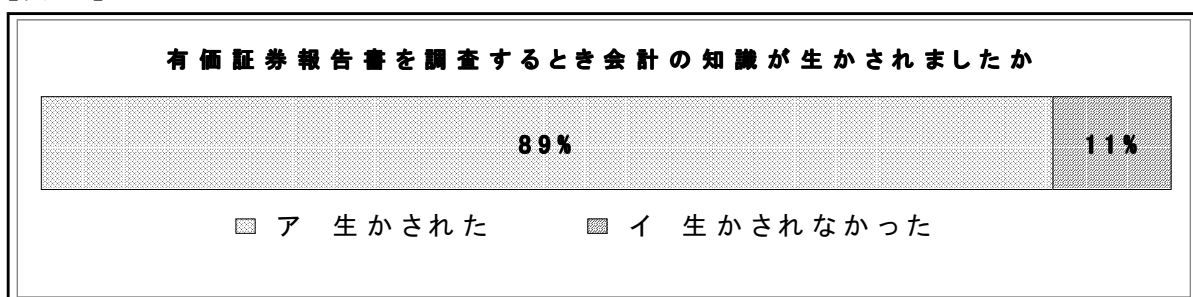


【表2-2】



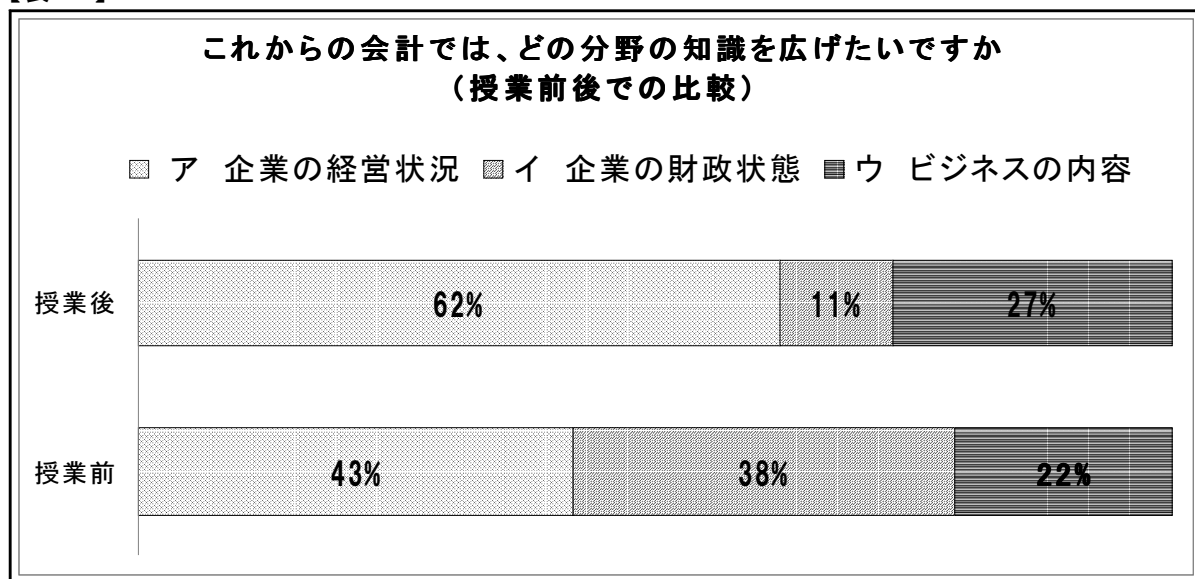
授業前アンケートでは、有価証券報告書について知らない生徒がほとんどであったが、この一連の授業を通して、有価証券報告書を「理解できた」と全員が回答し【表2-1】、89%の生徒が「また、調査してみたい」と有価証券報告書に対して興味・関心をもっている【表2-2】。これは貸借対照表、損益計算書やキャッシュフロー計算書などを教材として取り上げても同じような傾向になると推測される。

【表2-3】



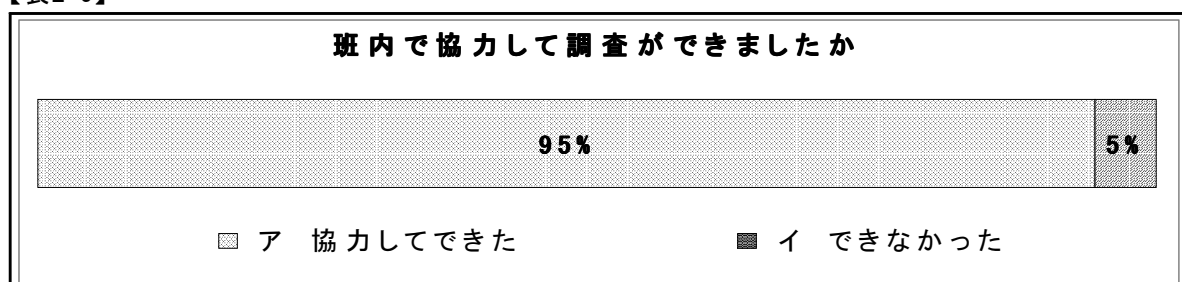
生徒が自ら学習した内容を生かし、実際の有価証券報告書を読み解くことで、知識を生かして意見をまとめていることが分かる【表2-3】。

【表2-4】

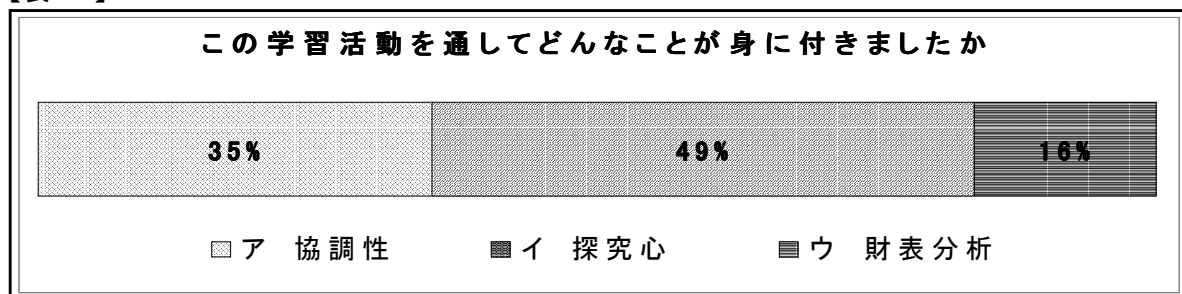


「企業の財政状態」は授業前アンケートでは38%であったが、授業後アンケートでは11%になった。しかし、「企業の経営状況」「ビジネスの内容」はそれぞれ増加している【表2-4】。これは、今回の授業において、実際に調べ学習を行ったことで、生徒が日頃の教科書や問題集では学ぶことができない企業の経営状況やビジネス活動の内容について、興味・関心をもったためではないかと思われる。

【表2-5】



【表2-6】



「この学習活動を通してどんなことが身に付きましたか」の問いに対して、協調性35%、探究心49%という回答であった【表2-6】。このことから、授業の内容をビジネス活動と関連付けることで、自主的・主体的な学習態度が身に付き、学習意欲の向上につながると考えられる。

感じたこと・考えたことなどの自由記述欄の回答 【資料5の7から】

- ・有価証券報告書を調べることによって、その企業について分かるので、調べて楽しかった。
- ・日頃から学んできた会計の知識を生かせたと思います。
- ・グループで協力して調べまとめることができ、協調性の大切さを改めて感じました。
- ・みんなで協力し合って役割分担ができたので、良かったと思います。
- ・興味がないことでも、調べていくうちに疑問点が出てきてどんどん興味を持ち始めると楽しくなった。
- ・自分たちの知識でも実際の企業の報告書を理解できることが分かった。
- ・普通の顧客としてではなく、違った視点で企業を見ることができ興味深かった。他の企業のことも、さらに調べてみたいと思った。
- ・2年間学んできたことを生かして、財務諸表から企業の状態を導き出すことができた。もっと深く調べてみたいと思った。
- ・今まで知らなかった有価証券報告書の調べ方が分かった。
- ・協力して何かを調べ発表することの難しさが理解できた。
- ・この活動を通して、企業がどのように工夫したら売れるかということが分かった。今まで、学んできたこと生かして良かった。
- ・今まで企業の詳しいことまでは知らなかったけれど、この授業で少し知ることができた。
- ・日頃から学んできた会計の知識を生かすことができ、自分たちの知識でも実際の企業の有価証券報告書を理解できることが分かった。
- ・もっと深く調べてみたいと思った。
- ・グループで協力して調べまとめることができ、協調性の大切さを改めて感じました。

アンケートや感想から、有価証券報告書について一部ではあるが理解できたこと、日頃学習してきた知識が実務で活用されていること、実際のビジネスに即した体験的学習ができたことなど、ビジネスの諸活動と学習がつながっていることを、生徒はこの授業を通して実感できたようである。また、グループで調査・研究する活動を通して協調性の大切さを学ぶとともに、調査したことについて討論し考察する難しさを学んだということも分かる。

今回の一連の企業調査・研究を通して、有価証券報告書に興味・関心が高まるとともに、さらに深く調べてみたいという探究心をもつことができたようである。

3 まとめ

(1) 成果

本事例では、インターネットなどを活用し、有価証券報告書を調べ発表するという学習活動を行った。また、事例研究やグループ学習などを通して、利害関係者に提供された会計情報を基に、企業の経済活動について主体的に考察させた。

本事例は、生徒にとって、何が本質的な課題かを見極め分析すること、課題を解決するための手段・行動を繰り返すことによって、思考力・判断力を養う機会となった。また、専門的な学習を通して、ビジネスの諸活動に会計情報を活用する会計活用能力も養うことができた。

グループ学習においては、同じ目的をもつことによって、思考力、判断力、表現力、コミュニケーション能力と態度を養うことができる。この学習活動は専門性の深化を図る上で有効な学習形態であった。

新学習指導要領で示されている「将来のスペシャリストの育成」、「地域産業を担う人材の育成」、「人間性豊かな職業人の育成」という3つの観点のうち、「将来のスペシャリストの育成」という観点から、授業の中で実際のビジネスの1つである有価証券報告書を用いて、企業研究することは極めて重要である。

有価証券報告書を活用し、実際の企業を調査・分析することにより、生徒は多面的な視点をもって考察することの大切さに気付く結果となった。

(2) 課題

本事例では、「生徒が、利害関係者に提供された会計情報を基に、主体的に考察し、まとめ、発表する。」という学習活動ができた。しかし、調査・研究をスムーズに進めるために、教師側で有価証券報告書の調査項目や発表項目をあらかじめ用意しておいた。有価証券報告書を、生徒自らの視点をもちながら考察させることも必要だと感じた。

本事例の成果を足がかりに、今後も学習内容とビジネスの諸活動と関連付けながら、このような活動を計画的に取り入れていきたい。また、ケーススタディや討論など様々な学習活動を取り入れながら、会計責任の果たす重要性について理解させていきたい。

〈参考文献〉

『高等学校学習指導要領解説 商業編』 文部科学省 平成22年5月

事例3 ビジネスの諸活動において、情報を主体的に活用させ、表現させる指導の工夫

1 ねらい

新学習指導要領において、「情報処理」では、ビジネスに関する情報を収集・処理・分析し、表現する一連の活動を、知的財産の保護などに留意して適切に行い、ビジネスの諸活動において情報を活用する能力と態度を育てるという観点から、ビジネス情報の処理と分析やプレゼンテーションに関する内容が取り入れられている。

指導に当たっては、文書処理ソフトウェアや表計算ソフトウェアなど各種ソフトウェアの操作方法を習得させることにとどまらず、具体的なデータを用いて、情報を収集・処理・分析し、表現するための実習を取り入れ、情報を主体的に活用できる能力を育てることが大切である。

これを踏まえ、本事例では科目「情報処理」の調査研究を行った。

複数の情報から目的に合わせて情報を取り出し、加工してプレゼンテーション（発表）を行うという一連の学習活動により、情報活用能力を育成することを目指した。具体的には、複数の情報の中から、新製品の販売促進を図るために適切な情報を取捨選択し、情報を処理・分析して発表するという学習活動を行った。この一連の学習活動を通して、情報を主体的に活用させ、表現させる力を身に付けることを目標とした。

2 指導実践

(1) 指導内容

- ・表計算ソフトウェアのグラフ作成機能を利用して、目的に合ったグラフを作成し、帳票や報告書などのビジネス書類を作成し、プレゼンテーションをさせる。

(2) 評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
① グラフの種類や特徴に関心を持ち、目的に合った表現について考えようとしている。	① 表計算ソフトウェアの機能を用いて適切な報告書に表現しようとしている。	① 表計算ソフトに関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。	① 発声や話す速度、表情や姿勢、話の構成など、プレゼンテーションを行うための技法を身に付け、ビジネスの諸活動に関する意義や役割を理解している。
② 報告書の作成方法について関心を持ち、考えようとしている。	② 目的に応じた適切な情報を選択して報告書を作成している。	② 提示された情報を適切に処理し、目的に合った報告書をまとめている。	
	③ 表やグラフを工夫し、報告書を作成している。	③ まとめた資料を活用し、提案の趣旨を正確・簡潔に伝えるプレゼンテーションをしている。	

(3) 指導計画（5時間）

時間	学習内容	評 価					
		関	思	技	知	評価規準	評価方法
1 ・ 2	○提案書の検討・作成 （2時間） ・配付された情報を活用してワークシートを検討する。 ・ワークシートをもとに提案書を検討する。	① ②	① ②	①		・情報を整理し、積極的に活用しようとしている。 ・目的に合った提案書を作成するため、情報を適切に選択している。 ・表計算ソフトに関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。	ワークシート 提案書 行動観察
3 ・ 4	○発表の準備 ○発表 （2時間） ・提案書の作成。 ・提案書を利用し発表するための準備をする。 ・発表及び評価				①	・聞きやすい発声や速度、聞き手を引きつける話の構成など、プレゼンテーションの技法を理解している。 ・聞き手を考えた表現で、提案書の趣旨を正確・簡潔に伝える発表をしようとしている。	提案書 発言 行動観察
5	○提案書の編集 （1時間） ・評価から提案書の再検討をする。		③	②		・発表の評価や改善点をもとに再検討し、より分かりやすい提案書を作成している。 ・適切な方法で提案書をまとめることができる。	提案書 行動観察

(4) 授業の概要

ア. 1・2時間目の授業

段 階	学習活動	指導上の留意点
導 入	・単元の学習内容の予告と教科書の内容を確認する。	
展 開	・配付されたデータの内容を確認する。 ・ワークシートを用い、どのデータを使用し、どのような提案書を作るかを話し合い決定する。 ・表計算ソフトを使い、資料を作成する。	・1班2～4名で7班を作る。 ・具体的なデータを基に、目的に応じた表やグラフを作成することを促す。
まとめ	・次回の学習内容の概要をつかむ。	

第3学年を対象に実践授業を行った。1・2時間目の授業内容は、自分たちが携帯電話メーカーの販売促進担当者として想定し、新機種の利点を販売店員に理解してもらうために、具体的なデータを基にして提案書を作成するというものである。授業に先立ち、多種多様なデータ【資料1】を提供し、生徒たちが様々な視点から自主的・主体的に考察できるようにした。さらに、学習活動を通して情報を処理・分析し表現することを目指した。

【資料 1】

アンケート調査結果

配付データ（一部）

機能比較表		従来型携帯電話	スマートフォン		
		A	B（旧機種）	C（新機種）	D（他社機）
本体	発売日	2010年10月	2010年10月	2011年10月	2011年10月
	縦	110mm	120mm	115mm	120mm
	横	50mm	60mm	58mm	59mm
	厚さ	18mm	12mm	8mm	9mm
	重さ	200g	150g	130g	140g
	容量	16GB	8GB	32GB	16GB
	サイズ	3.0インチ	3.5インチ	3.6インチ	3.7インチ
画面	最大表示色数	26万色	6.5万色	26万色	16万色
	解像度	480×320ピクセル	480×320ピクセル	960×640ピクセル	960×640ピクセル
カメラ	有効画素数	808万画素	320万画素	510万画素	810万画素
	フラッシュ	フライト	—	LEDフラッシュ	フラッシュ
その他機能	連続待受時間	560時間	300時間	400時間	300時間
	連続通話時間	最大4時間	最大4時間	最大で8時間	最大で6時間
	動画録画時間	180分	60分	230分	134分
	赤外線通信対応	○	—	○	○
	インターネット利用	最大4時間	最大4時間	最大6時間	最大5時間
	カラー	全12色	黒・白のみ	黒・白・銀・金・ピンク	全10色
	防水	防水	—	防水・防塵	防水
	ミュージックプレイヤー	WMA	MP3	WMA・MP3	WMA・MP3
オリジナル機能	—	—	マルチタスク HDビデオ撮影・編集 ビデオ通話	ツインスピーカー インカメラ搭載 手書き文字認識	

購買層	性別		世代別					
	男性	女性	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上
A	60%	40%	20%	20%	15%	15%	20%	10%
B	70%	30%	5%	10%	40%	35%	9%	1%
C(予想)	50%	50%	10%	25%	25%	25%	10%	5%

B(旧機種)の使用者へのアンケート結果

- 使いやすさ：とても使いやすい50%、使いやすい30%、使いづらい20%
- 大きさについて：大きい10%、厚い10%、普通70%、小さい10%
- もっと他にほしい機能は？
カメラの画素数を大きくしてほしい 容量がほしい
もっときれいな色のものがほしい 赤外線通信を可能にほしい

C(従来型携帯電話)使用者に対するスマートフォンのモニターアンケート結果

- 使いやすさ：とても使いやすい60%、使いやすい30%、使いづらい10%
- 大きさについて：大きい10%、厚い10%
- 使用してみた感想
ディスプレイがとてもきれいで見やすい バッテリーが長持ちする
LEDフラッシュで美しい繊細な写真を撮ることができた
かわいい色が発売されたので買いたくなった 薄くて軽くて使いやすい

各班がどこに視点を置いて販売店に新機種の良さを理解してもらうか、販売戦略の方向性を決めるために目的に応じた適切なデータを取り出させた。データの内訳は従来機・他社機との機能比較ができるものや、売上高の推移、購買層分析、予想データ、アンケート結果などである。販売店員が新機種の特徴をより理解しやすい提案書の骨子を考察するためのワークシート【資料2】に記入するとともに、パソコンへの入力も行うことを指示した。

この学習活動では、ビジネスの諸活動において情報を主体的に活用し表現することができた。A班及びB班の一連の学習活動に焦点を当てて報告する。

【資料2】

スマートフォン資料作成ワークシート

あなたはスマートフォンを製造するメーカーに勤務しており、販売促進の担当です。
新機種Cを販売店に卸すにあたり、まずは販売員に新機種の良さを知ってもらいたいと考えました。
そこで、販売員が消費者に対しより分かりやすい説明ができるよう、販売員向けの資料を作成することにしました。
手元にあるデータを使い、販売員が新機種Cをより理解し、販売しやすくなるような資料を作成してみましょう。

1. どのデータを使用するかを決めましょう。
2. その中でも特にどのデータを一番に強調しますか？
3. どんなグラフをつければ、より分かりやすくなりますか？
4. 販売員に資料を使って説明する際、どんなプレゼンをしますか？



ワークシート【資料2】を検討している様子

生徒たちが作成したワークシートの一部【図1-1】【図1-2】を以下に示す。

【図1-1】

スマートフォン資料作成ワークシート

あなたはスマートフォンを製造するメーカーに勤務しており、販売促進の担当です。
新機種Cを販売店に卸すにあたり、まずは販売員に新機種の良さを知ってもらいたいと考えました。
そこで、販売員が消費者に対しより分かりやすい説明ができるよう、販売員向けの資料を作成することにしました。
手元にあるデータを使い、販売員が新機種Cをより理解し、販売しやすくなるような資料を作成してみましょう。

- どのデータを使用するかを決めましょう。
BとCの比較
BとCのデータの利用
Bを利用している人へのアンケートを参考にする(機能面)
- その中でも特にどのデータを一番に強調しますか？
旧商品と新機種の機能の比較
- どんなグラフをつければ、より分かりやすくなりますか？
旧商品と新機種を比較した表
- 販売員に資料を使って説明する際、どんなプレゼンをしますか？
使用アンケートの結果を活かして、新機種の改善点をアピールする

ワークシート (A班)

従来型携帯電話からの新規開拓ではなく、すでにスマートフォンを利用しているユーザーへの機種変更を促すような戦略をとっている。

具体的には、旧機種と新機種の比較に重点を置き、消費者が選択する立場で提案書を作成しようとするのが分かる。また、アンケート調査結果から、B機種(旧機種)を利用しているユーザーへのアンケート結果に着目するなど、情報を活用することを意識しており、戦略に必要なデータ収集・処理を行おうとしている様子が見えてくる。

【図1-2】

スマートフォン資料作成ワークシート

あなたはスマートフォンを製造するメーカーに勤務しており、販売促進の担当です。
新機種Cを販売店に卸すにあたり、まずは販売員に新機種の良さを知ってもらいたいと考えました。
そこで、販売員が消費者に対しより分かりやすい説明ができるよう、販売員向けの資料を作成することにしました。
手元にあるデータを使い、販売員が新機種Cをより理解し、販売しやすくなるような資料を作成してみましょう。

- どのデータを使用するかを決めましょう。
A・B・C・D のすべての比較
モニターアンケートの結果
- その中でも特にどのデータを一番に強調しますか？
最大連続通話時間
最大インターネット利用時間
- どんなグラフをつければ、より分かりやすくなりますか？
アンケート結果を円グラフを使って表したい
- 販売員に資料を使って説明する際、どんなプレゼンをしますか？
グラフをよく見てもらって納得させる

ワークシート (B班)

多くのユーザーが多機能なスマートフォンを購入するにあたり、判断するポイントは何かという視点で考察していることが特徴的である。

具体的には通話時間とインターネット利用時間に絞ることで、ビジネスマンを意識した提案書を作成しようとしている。ビジネスマンというユーザー層をねらい、一点突破から展開を図ろうとしている様子が見えてくる。

始めは報告書の完成のイメージがわからず、多くの班が戸惑いを見せたが、ワークシートを作成することで、しだいに描く姿が明確になり、提案書の表やグラフの種類など作成するための方向性が見えてきたようである。

イ. 3時間目の授業

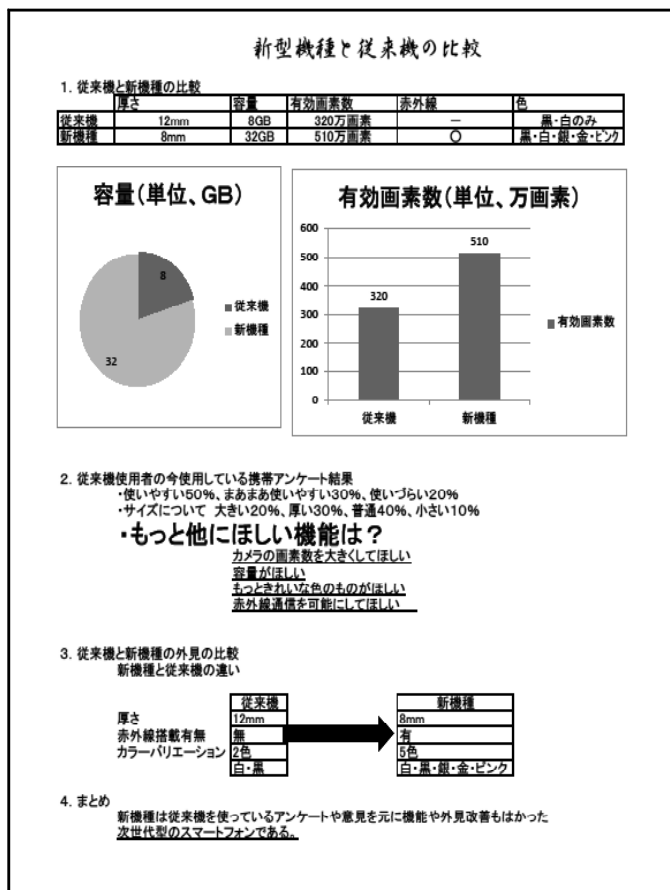
段 階	学習活動	指導上の留意点
導 入	・ 本時の活動内容を把握する。	
展 開	・ 前時に作成したワークシート【資料2】から提案書を作成すると同時に、発表の準備をする。	・ 提案書を活用した発表の準備をする。
まとめ	・ 次回の学習内容の概要をつかむ。	

ワークシート【資料2】に基づいて班ごとに提案書を作成した。

ワークシートを活用することで提案書の描く姿が明確になり、活発な意見交換が行われ、自主的・主体的に取り組む姿勢が見られるようになった。同じデータから円グラフや棒グラフなど、いくつかの種類 of グラフを作成し見比べて検討している班も見受けられ、それぞれの班が自分たちのねらいにあった報告書を作成していた。

生徒が作成した提案書の一部【図2-1】【図2-2】を以下に示す。

【図2-1】

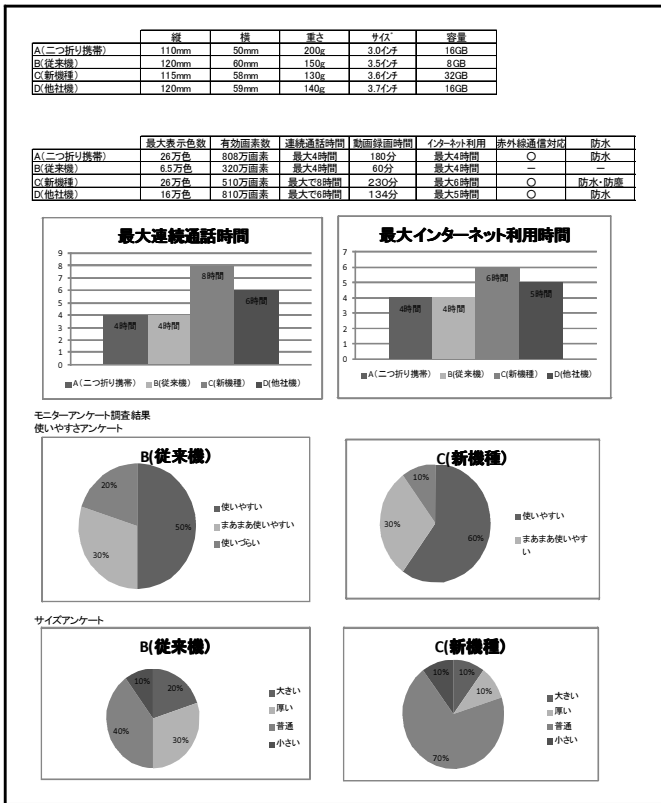


A班の提案書（発表用）

従来機との比較に絞り、機能が改善されたことや、ユーザーの声を吸い上げてスピード感をもって改善していることをアピールすることで、今後にも期待がもてるように印象付けることをねらっている。

旧機種と新機種との比較だけでなく、使用アンケート結果をもとに改善された点なども強調したことで、分かりやすい提案書になった。

【図2-2】



B班の提案書（発表用）

ビジネスマンを販売対象と位置付け、通話時間及びインターネット利用時間について他機種にはない特徴を示し、差別化を図ることをねらいとしている。

モニターアンケートからも、通話時間やインターネット利用時間に関する2つの特徴は裏付けられている。

この班の特徴は提案書の目的や対象が明確であり、分かりやすい提案書になった。

各班とも、自分たちのコンセプトをもち、それぞれ特徴のある提案書を作成していた。このことから情報を効果的に活用することは、問いに対して正解は一つではないことを、生徒たちは学習活動を通して再確認することができた。

ウ. 4時間目の授業

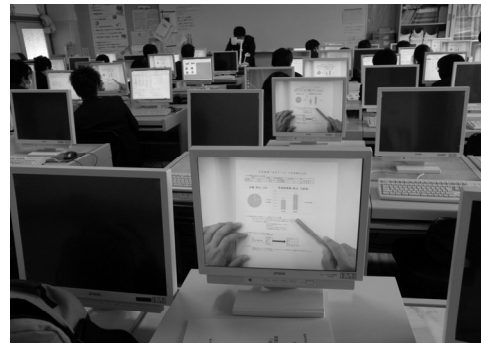
段階	学習活動	指導上の留意点
導入	・本時の活動内容を把握する。	
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・班ごとに発表する。 ・発表を聞いている班は、各自評価を記入し、アドバイスなどを付箋（授業ではアドバイスメモと呼ぶ）に記入する。 ・発表後、アドバイスメモを各班に届ける。 ・発表を見て参考になったことを班ごとに話し合い、他者の評価をもとに、修正して提案書を完成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表の準備をする。 ・評価をしながら、自分たちの資料との違いなどをメモしておくように指示する。
まとめ	・次回の学習内容の概要をつかむ。	

4時間目は、前時まで作成した提案書の発表と評価を行った。

発表方法は、作成した提案書を教材提示装置でモニターに映して説明を加えながら、班ごとに発表する形式をとった。プレゼンテーション用ソフトを使用させなかった理由は、検討させた提案書を提示することで、班の新商品の販売促進のねらいが伝わりやすくなると思ったことにある。



教材提示装置を活用し提案書を基に発表している様子



モニターに提案書が映し出されている

発表を聞く側の生徒は、資料の見やすさや分かりやすさ、発表の声の大きさ・内容の分かりやすさ、提案書のねらいと発表が一致していたかなどを評価した。評価方法は、発表を評価表【資料3】に記入させた。また、生徒に改善したほうがよいと思われる事項をアドバイスメモに記入させ、授業の最後に各班に提出させた。

以下が発表風景と使用した評価表【資料3】である。

【資料3】

		評価表				
		3年 組 番 氏名:				
		とてもよい	よい	あまりよい	よい	
1班	資料	見やすさ	4	3	2	1
		ポイントのわかりやすさ	4	3	2	1
	発表	声の大きさ	4	3	2	1
		内容のわかりやすさ	4	3	2	1
		資料のポイントと説明があっていたか	4	3	2	1
	感想					
2班	資料	見やすさ	4	3	2	1
		ポイントのわかりやすさ	4	3	2	1
	発表	声の大きさ	4	3	2	1
		内容のわかりやすさ	4	3	2	1
		資料のポイントと説明があっていたか	4	3	2	1
	感想					
3班	資料	見やすさ	4	3	2	1
		ポイントのわかりやすさ	4	3	2	1
	発表	声の大きさ	4	3	2	1
		内容のわかりやすさ	4	3	2	1
		資料のポイントと説明があっていたか	4	3	2	1
	感想					
4班	資料	見やすさ	4	3	2	1
		ポイントのわかりやすさ	4	3	2	1
	発表	声の大きさ	4	3	2	1
		内容のわかりやすさ	4	3	2	1
		資料のポイントと説明があっていたか	4	3	2	1
	感想					
5班	資料	見やすさ	4	3	2	1
		ポイントのわかりやすさ	4	3	2	1
	発表	声の大きさ	4	3	2	1
		内容のわかりやすさ	4	3	2	1
		資料のポイントと説明があっていたか	4	3	2	1
	感想					
6班	資料	見やすさ	4	3	2	1
		ポイントのわかりやすさ	4	3	2	1
	発表	声の大きさ	4	3	2	1
		内容のわかりやすさ	4	3	2	1
		資料のポイントと説明があっていたか	4	3	2	1
	感想					
7班	資料	見やすさ	4	3	2	1
		ポイントのわかりやすさ	4	3	2	1
	発表	声の大きさ	4	3	2	1
		内容のわかりやすさ	4	3	2	1
		資料のポイントと説明があっていたか	4	3	2	1
	感想					
他の班と比べて自分の班の発表はどつでしたか?		4	3	2	1	
どの班の発表が一番良かったですか?		班				



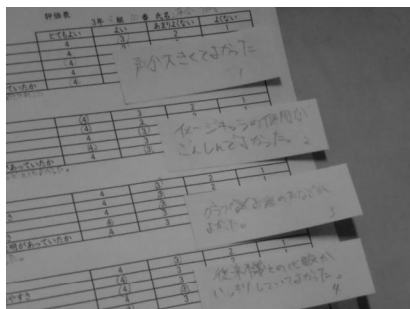
モニターを見ながら発表を聞いている様子



発表に対して生徒たちが評価を行う様子

発表後は、自分たちの提案書が分かりやすいものであったか、伝えたいことがきちんと伝わるものであったか、など検討する際の材料とするため、生徒がアドバイスメモに記入して相手に直接渡し、感想なども伝えあうように指示した。

アドバイスメモを直接渡すことでコミュニケーションをとることができ、メモだけでは伝えにくい部分についても具体的な説明をする機会となった。一方、メモを受けた側は、提案書を修正するヒントにつながった。



評価表と付箋（アドバイスメモ）に記入



アドバイスメモを渡しながら感想を伝え合う様子



エ. 5時間目の授業

段 階	学習活動	備考
導 入	・ 本時の活動内容を把握する。	
展 開	・ 前時に他の班の発表を見て参考になったことや、アドバイスメモを整理して、自分たちの作成した資料をより分かりやすいものに作成し直す。 ・ 一連の学習活動で感じたことなどをまとめる。	・ アドバイスメモを内容ごとにグルーピングさせ、検討させる。 ・ 授業アンケートを実施する。
まとめ	・ 一連の学習活動に対する教師の講評を聞き、学習活動を振り返る。	

5時間目は、発表後に自分たちが気付いたことや他の班の発表を見て参考になったこと、また、他の班からの評価やアドバイスメモを活用し、共通する内容をグルーピングして提案書の課題を整理し、発表した提案書をより分かりやすく修正するという学習活動を行った。

○生徒による評価（アドバイスメモから）

（A班の評価）

- ・ 発表について
 - ・ 発表が分かりやすかった。
 - ・ 提案書も説明もとても分かりやすい。
 - ・ 新機種が分かりやすくまとめ、発表態度も一番良かった。
- ・ 提案書について
 - ・ 従来機と新機種の比較が見やすく伝えたいことが理解できた。
 - ・ アンケート結果が分かりやすく載っていて、話を聞く側を考えていたと思う。
 - ・ 情報が多いので、もっと字が大きい方がいい。
 - ・ ごちゃごちゃしているので、すっきりさせるとよいと思う。

A班は発表での評価が最も高かった。提案書も分かりやすかったという意見が多く寄せられ、生徒からは好評であった。

(B班の評価)

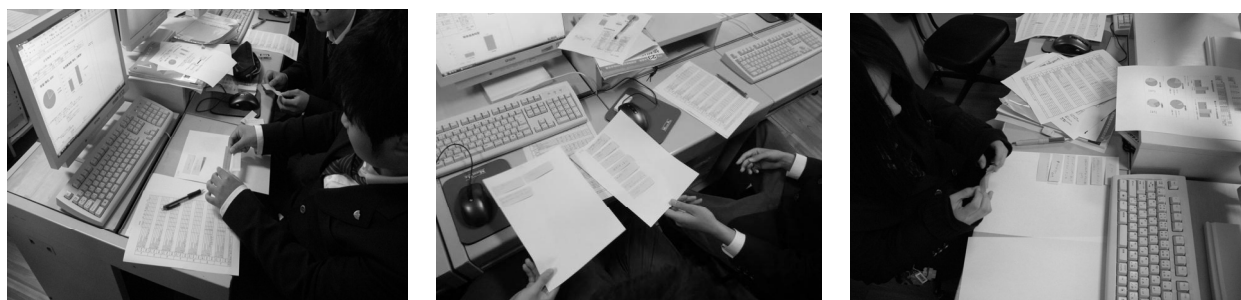
・発表について

- ・発表のテンポや声の大きさが良かったと思う。
- ・もう少し説明も入れた方がよい。

・提案書について

- ・情報を絞って提案書を作成しているので、見やすく分かりやすかった。
- ・グラフがたくさん入っていて分かりやすい。
- ・新機種が優れていることが見てすぐに分かる。
- ・表とグラフの関係が良く分からなかった。

B班の提案書は、説明文を載せずに、表とグラフを中心に作成されているのが特徴である。この提案書は、表とグラフで新機種の良さは理解できたが、なぜ、この新機種を薦めるのか相手に伝わりにくい部分が多く、課題が残ったようである。



評価されたアドバイスメモをグルーピングしている様子

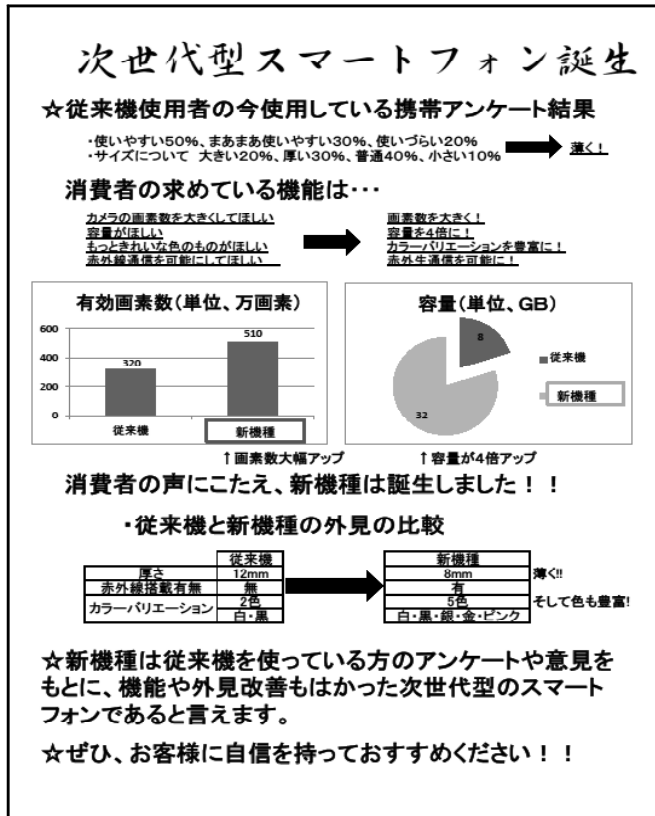


発表した提案書を修正している様子

この学習活動から、情報を活用した発表や評価を受け、報告書修正への取組など、ビジネスの諸活動においても重要な位置づけとされるPDC Aサイクルを、授業を通して生徒たちにも実践させることができた。

以下が修正された提案書【図3-1】【図3-2】である。

【図3-1】

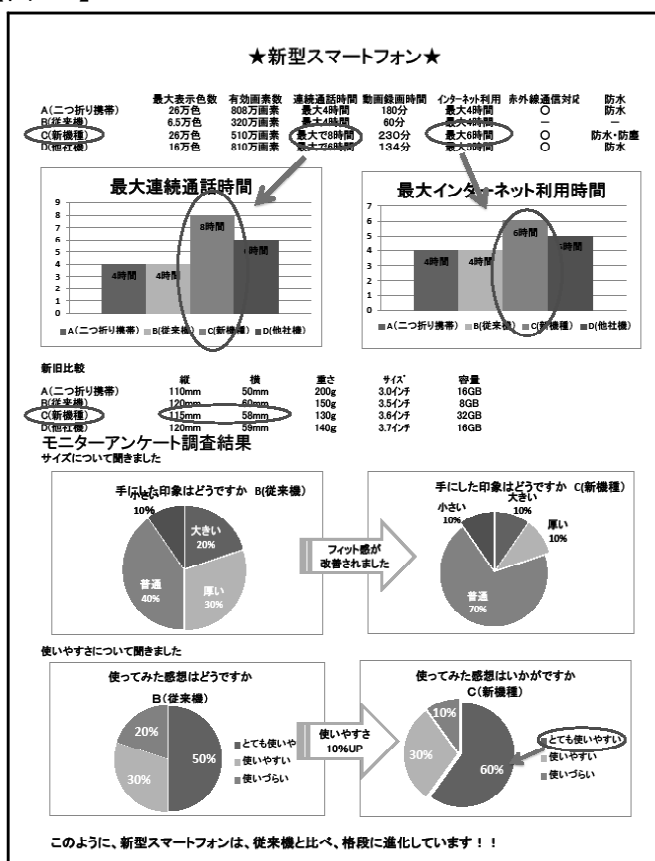


A班の提案書(修正後)

アドバイスを参考に、タイトルや文字を大きくし、すっきり見えるレイアウトに修正した。また、消費者アンケート結果を反映していることを強調し、販売員が消費者に商品をすすめやすいように工夫した。

発表時の提案書を修正するに当たり、改善の指摘を受けて見やすい形に直しているのがわかる。タイトルや文字の大きさなどを変え、さらに見やすく分かりやすい提案書に修正することができている。

【図3-2】



B班の提案書(修正後)

グラフを多用して視覚的に訴えた提案書であったが、説明が足りない部分が見られたので、その部分を円で囲ったり、説明文章がなくても視覚的にアピールできるように改善されている。

旧機種と新機種との比較だけでなく、使用アンケート結果をもとにモニターの意見を反映された点など、発表時より、分かりやすい提案書になった。

(5) 生徒による授業評価

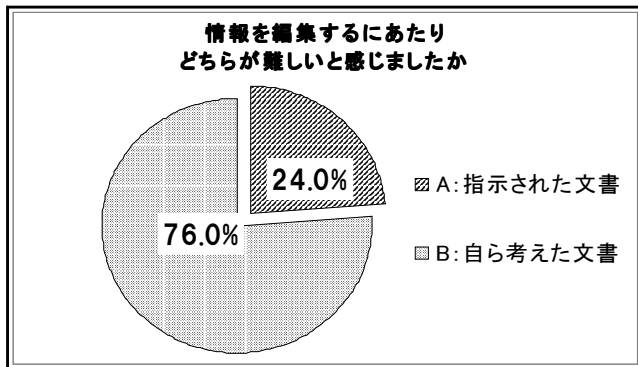
4時間目の最後に、授業アンケートとして一連の学習を終えて感じたことを記入させた。以下にアンケート結果と書かれた感想の一部を紹介する。

①質問1 情報を編集するにあたりどちらが難しいと感じましたか。

A：指示された通りに文書を作成すること

B：自分で考えて文書を作成すること

【表1-1】



②質問2 この授業で難しいと感じた部分はどんなところですか？

- ・どのデータを使ったらよいか、分からなかった。
- ・どんなグラフを作ったら分かりやすいか考えるのが難しかった。
- ・何も記入されていないワークシートに、一から書き込んでいくことが難しかった。
- ・伝える内容を絞ることが難しかった。等

③質問3 この授業でおもしろかった部分はどんなところですか？

- ・自分たちが考えたことを提案書という形で作れたこと。
- ・名前やグラフなどを選択して、自分たちで工夫ができたところ。
- ・指示されたグラフなどがなかったが、自分たちがイメージした提案書ができあがったのでうれしかった。
- ・聞いてもらう立場を考えて提案書を作成できたところ。
- ・同じ資料でも他の班と違う提案書になったところ。
- ・指示のないところから提案書を作りあげたところ。等

④質問4 目指す提案書ができたと思いますか？

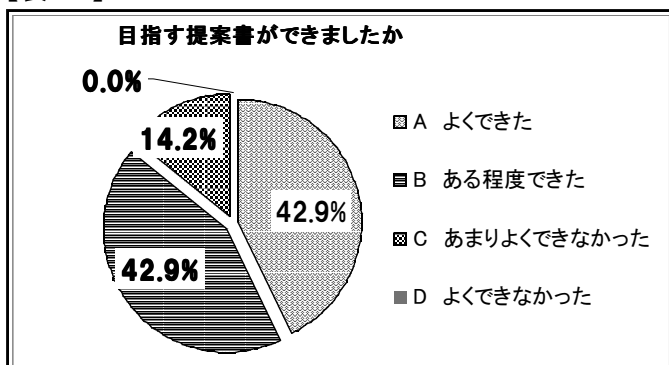
A：よくできた

C：あまりよくできなかった

B：ある程度できた

D：よくできなかった

【表1-2】



⑤質問5 今回の授業の感想を自由に書いてください。

- ・発表は緊張したけれど、うまく話せて良かった。
- ・班で協力し合うことができた。
- ・グラフをたくさん取り入れて見やすく工夫できた。
- ・言いたいことが多すぎてうまくまとめられなかった。
- ・企業に入ったら自分で考えて書類を作ることがあると思うが、それは簡単ではないことが分かった。
- ・修正する時間があつたので、思い通りの文書が作れた。等

感想にもあるように、経済社会では、指示されたことだけ行うのではなく、自ら創意工夫してつくり上げることが必要である。そのような場面に出会ったときに、自分にはそれらができるだろうか、と考えられたことが、生徒の変容と感じた。

3 まとめ

(1) 成果

本事例では、複数の情報から目的に応じたデータを取捨選択して、情報を処理・分析して発表するという学習活動を通して、情報活用能力を育成することを目指した。

与えられた条件どおりに情報を処理することはできても、情報を主体的に活用するために処理・編集することは難しいという感想が多かった。

1時間目に作業をスタートした時点では、生徒は何をしたらよいのかわからず戸惑っていたが、試行錯誤を重ねながら、しだいに積極的に取り組む姿勢が見られるようになった。

2時間目以降は、役割を分担して目的に応じた表やグラフを作成するなど、自主的・主体的な取組が見られた。発表では作り上げた提案書に足りない部分を言葉で補い、分かりやすく説明しようと努める姿が見られた。「うまく発表できなかったので、もう一度発表させてほしい。」という班もあり、プレゼンテーションにも積極的に取り組むことができた。発表後、他者の評価を受け入れて、提案書を修正することができたことは成果である。

生徒には、ソフトウェアの知識や技術の習得にとどまらず、情報を主体的に思考・判断して表現する力が求められている。このことを踏まえて、授業では生徒に主体性をもたせ、ビジネスに関する情報を適切に処理させるとともに、得られた情報をビジネスの諸活動に活用させることで、情報活用能力を育成することができる。

(2) 課題

今回は班を編成し作業を進めたが、班によっては積極的に検討を進められた生徒と、従来の指示を待つ受け身的な立場で進めた生徒の二極化現象が見受けられた。班の人数を少なくするか、班別ではなく各自で一つの文書を作成するようにさせると、よりよかったのではないかと考える。また、一度だけの実践でなく、形を変えて何度か繰り返すことができれば、自ら考え判断する能力をより効果的に身に付けさせることができるのではないだろうか。

〈参考文献〉

『高等学校学習指導要領解説 商業編』 文部科学省 平成22年5月

4 おわりに

今回の調査研究では、生徒の主体的な学習活動を取り入れ、ビジネスの諸活動について考察する機会を設定した。さらに、グループ学習を通して、学習内容と経済活動を関連付けた授業を研究協力員の協力を得て実践することができた。得られた成果と課題から、ビジネスの諸活動を踏まえた授業を実践するためには、下記のことについて留意しておく必要がある。

(1) 言語活動を商業の科目に一層取り入れる

報告書やデータから読み取ることを表現したり、自己と他者の意見を調整したりする言語活動を取り入れるなど、生徒の思考力・判断力・表現力・コミュニケーション能力などを育成することを授業で目指した。

商業教育において、ビジネスと関連付けるという視点から言語活動の充実を図ることは必要である。また、教師が言語活動を十分理解し、工夫を図りながら取り入れることが大切である。

(2) ビジネスの諸活動を多様な学習活動に取り入れる

各事例は、グループでの調査研究を通して、学習活動とビジネスの諸活動を関連付けさせる取組を計画した。ワークシートをまとめる活動、グループで話し合う活動、グループでまとめた結果をプレゼンテーションする活動、他のグループを評価する活動、他者から評価されたものを改善につなげる活動など実践した。

これらの学習活動を通して、生徒にビジネスの諸活動に目を向けさせることができた。社会的責任を担う職業人を育成するためには、教師がビジネスの諸活動を授業に取り入れることで、知識の習得にとどまらず、自主的・主体的な行動に結び付けていくことが重要である。日頃の学習と職業との関連性を理解させるためにも、多様な学習形態の工夫を図ることが大切である。

(3) ビジネスの諸活動に目を向けさせる

商業科に学ぶ生徒は、将来ビジネスの諸活動に参加することが予測される。これを踏まえ、ビジネスの諸活動に対応する能力を養い、専門的な学習への動機付けを行うために、インターネットや新聞、広告などの活用を図り、経済社会の動向に着目したり（**事例1**）、有価証券報告書を活用し多面的な視点を持ち考察させたり（**事例2**）、複数の情報から目的に応じた情報を活用し資料を作成したりする（**事例3**）ことが大切である。生徒は資格取得に目を向けがちであるが、知識や技術の習得にとどまらず、ビジネスの諸活動に目を向けさせることで、ビジネスの意義や役割を理解させることができる。

(4) ビジネス活動に対する理解力と実践力を身に付けさせる

商業科の各分野の学習では、顧客満足実現能力、ビジネス探究能力、会計情報提供・活用能力、情報処理活用能力を育てることが大切である。

事例1では、経済社会の動向を踏まえて、消費者の視点に立ち、ニーズを捉え、顧客満足を実現させる能力（ビジネス探究能力）、**事例2**では、ビジネスの活動に会計情報を活用させる能力（会計情報提供・活用能力）、**事例3**では、ビジネスに関する情報を適切に処理させることや、得られた情報を活用させる能力（情報処理・活用能力）を育てることを目標とした。

ビジネス活動に対する理解力と実践力を身に付けさせるために、各事例を学校や生徒の実態に応じて授業展開を考えていくことが重要である。

◇平成23年度高等学校における教科指導の充実 研究協力委員・研究委員（商業科）

研究協力委員

栃木県立宇都宮商業高等学校 教諭 桑川 國生

栃木県立栃木商業高等学校 教諭 本島 通宏

栃木県立高根沢高等学校 教諭 添田 昌子

研究委員

栃木県総合教育センター 研修部 指導主事 柳田 昌臣

**高等学校における教科指導の充実
商 業 科
新学習指導要領を踏まえた
ビジネスの諸活動に目を向けさせる指導の工夫**

発 行 平成24年3月
栃木県総合教育センター 研究調査部
〒320-0002 栃木県宇都宮市瓦谷町1070
TEL 028-665-7204 FAX 028-665-7303
URL <http://www.tochigi-edu.ed.jp/center/>